

学校給食を活用した食教育による食行動の変容と その継続性に関する検証

Verification on continuity of behavior change to make good use of school lunch

関根 京子

Kyoko Sekine

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修

キーワード：食育，行動変容，学校給食

Key words : Dietary education, Behavior change, School lunch

1. 目的

栄養の知識を得ることは、身心の成長はもとより人格形成に大きな影響があり、財産になると考えられている。小学校における食育の評価として現状では単発の授業実施後にアンケートを取り、意識の変化が見られたかを検証するのみである。しかし、知識を得て意識が変化しても、行動変容にはつながらない。赤松らは「行動変容段階モデルを用いた小学校における食に関する指導実践例」で学校における食に関する指導において、行動変容段階モデルを活用している。これを応用し学習指導要領の総則にある「学校における食育の推進」に則った授業を行ったあと、アンケートの実施にとどまらず、行動変容につながったかを検証できるカリキュラムの考案と、教育指導案の検討と改善を行いたいと考えた。

また、児童は大人が考える望ましい食習慣を身に付けたいと考えているか？苦手な食べ物でも食べようとする姿勢を育てるという到達目標を掲げる必要性が明確にあるか？といった疑問が生じた。必要があるならば、具体的にどのような働きかけが有効であるか、どのような知識が必要になるか？あるいは、知識は重要ではあるか？といった疑問も生じた。知識の有無と行動変容の実際の関係性を検証したいと考えた。本研究では、年間190回も実施されている学校給食を生きた教材として活用し、望ましい食習慣の定着と行動変容の継続性を確認する有効な方法について検証することを目的とした。

2. 方法

調査期間は2018年6月～2019年12月であった。調査対象は葛飾区立東柴又小学校第2学年2クラス全児童（1組：男子13人、女子11人 2組：男子12人、女子11人）とした。事前に介入前アンケートを実施し、食育の授業後に、行動変容の確認および継続性を検証するセルフチェックを実施した。

授業3か月後には、知識の定着を確認するワークシートを実施し、5か月後には給食食材の中で「好きな食材」「苦手な食材」を書き出すセルフチェックを実施した。併せて家庭向けに食育だよりも配布した。7か月後には個別アプローチを実施した。1年3か月後には、改めて知識の定着状況を確認した。その後、掲示物や、食育だよりによるアプローチ後にアンケートを実施した。

3. 結果と考察

介入前アンケートでは、苦手な食べ物があると答えた児童は1組83%、2組61%であった。また、苦手な食べ物が出てきたときに残すかとの質問には、どちらのクラスも学校より家庭で残す割合が多かった。家庭では苦手な食べ物は出ないと答えた児童は1組で8%であった。また、家庭で苦手な食べ物が出た場合に保護者から「食べなくていい」と言われると答えた児童もいた。

子どもたちは、学校や家庭で好き嫌いをしてはいけないとよく言われているが、なぜ好き嫌いをしてはいけないのか、栄養が偏ると身体にとってどんな影響があるのかについては十分に理解していない。そこで、嫌いな食べ物でも親しみを持つことができることを目標にした食育の授業を行った。

食育の授業後すぐに各自で約束を決め、1 週間のセルフチェックを実施した。残さず食べる、苦手な物でも食べるといった内容が多く見られた。ほとんどの児童が、各自で決めた目標を達成することができていた。対象が 2 年生であることの影響が大きいと考えられた。また、ほとんどの児童が「給食の時間が楽しい」「給食が楽しみである」と答えていたことから、給食に対して好意的で、食育の授業にも積極的に参加する姿勢が見受けられた。

3 か月経った時点において、三色食品群の知識の確認を実施したところ、全問正解した児童は 19% であったが、全くわからないと答えた児童もいた。三色食品群を用いた授業は、望ましい食習慣獲得のために食に関する知識の必要性を検証するためである。教室に掲示されている、三色食品群の表で、自分の好きな食材が何色に属するかを確認し、その色の食材の不足により、自分の身体に起こる影響を確認できる掲示とした。結果として、関心のある児童は見ていたが、全く見ない児童もいた。

5 か月後の給食食材で、好きな食材、苦手な食材を記入するセルフチェックでは、食べてみて味は好きだが、食材名が分からない児童がいることも明らかとなった。また、給食で初めて食べる食材があるということも明らかとなった。食に関する知識や経験は、各家庭により差が生じていることが示された。

1 年 3 か月後に実施したアンケートでは、授業後すぐに決めた約束を守っていると回答した児童は 87.5% であり、三色食品群の分類を覚えている児童は 66.6% であった。また、苦手な食べ物が給食で出た時、全部食べると答えた児童のうち、三色食品群の分類を覚えていた児童は 91.4% であった。

給食は全部食べたほうがいいと思うと答えた児童のうち、三色食品群を覚えていた児童は 65.8% であった。三色食品群への分類、およびその働きの知識が望ましい食習慣への行動変容に役立つという可能性が示唆された。

4. まとめと今後の課題

本研究で、望ましい食習慣の継続性について有効な手段、方法の検討を目的とした。子どもたちの食習慣の形成において基本は家庭である。核家族化が進み、孤食、個食などが問題視される中、毎日提供される学校給食はかなり重要なものとなっている。また、家庭においては、苦手な食べ物を食べなくてもよいと言われていたり、そもそも苦手な食べ

物は出ない家庭も存在する。つまり、保護者の食に対する関心の度合いが、子どもの食習慣へ大きく影響している。しかし、家庭に対する食習慣への介入はかなり難しい。したがって、注目すべきは、やはり毎日提供される学校給食であると考えられる。

今後、年間 190 回を超える回数で実施される学校給食を活用し、望ましい食習慣を身につけさせることは必須であるように思われるが、学校内で全ての児童に対して、同様に同提供される給食においても、担任の言葉がけも大きく影響している。今回の調査に協力していただいた 2 クラスの担任教諭は、日ごろより、「食べることの大切さ」「もったいない」といったことを児童に話しながら給食指導をしている。担任の給食に対する意識の差が関係すると考えられるので、担任に対する調査も今後実施したいと考える。食に関する経験は、就学前の家庭環境が大きく影響すると考えられる。集団に対する食教育の一環として実施するには、行動変容段階ステージの違いから、個別のアプローチも必要となると考える。今後は、行動変容段階ステージの違いによる個別アプローチの方法について、検討することの必要性が考えられた。

また、学校栄養職員による児童や教諭への働きかけも重要であると考えられる。単に、献立を立て給食を提供するだけにとどまらず、その献立を通じて伝えたいことを明確にさせ、食育の目標を確実に到達させることが必要である。それぞれの学校で、年度初めに立てられる「食に関する年間計画」の作成についても今後検討する必要があると考えられる。

主要参考文献

1) 赤松理恵、永橋久文/行動変容段階モデルを用いた小学校における食に関する指導の実践事例、日本健康教育学会誌, 2008;16(2):31-40

大麦粥の摂取が摂食嚥下困難および入院高齢者の

腸内細菌叢に及ぼす影響

The effect of barley porridge intake on fecal microbiota
in the dysphagia and hospitalized elderly people

福田 沙織

Saori Fukuda

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修

キーワード：摂食嚥下，高齢者，腸内細菌

Key words : Dysphagia, Elderly people, Fecal microbiota

1. 目的

加齢に伴う腸内細菌叢の変化として，高齢者の腸内細菌叢は成人と比較し多様性および安定性が低下すると報告されている．腸内細菌叢に影響を与える加齢に関連した因子には，①身体的変化，②食事内容の変化と低栄養，③生活環境，④抗生剤などの薬剤があげられ，これらは複合的に腸内細菌叢の構成に影響を及ぼす．本研究は，65歳以上の地域に住む一般高齢者と入院生活を送る高齢者の腸内細菌叢の違いを把握し，摂食嚥下機能が低下した入院高齢者の主食に大麦を添加した試験食を用いた介入試験を行うことで，大麦がもたらす摂食嚥下困難高齢者に対する腸内細菌叢の影響を明らかにすることを目的とする．大麦の腸内細菌叢改善効果については，多くの先行研究がなされており，また調理加工により軟化しやすく嚥下調整食にも応用しやすい食材である．

2. 方法

実験1：65歳以上の摂食嚥下機能が低下した入院患者と，一般高齢者の食事調査および糞便採取，腸内細菌叢解析を行い摂食嚥下機能がもたらす腸内細菌叢の影響について調査した．腸内細菌叢解析には，次世代シーケンサーを用いて，門レベルおよび属レベルの占有率ならびに多様性解析（ α 多様性と β 多様性）を行った．

実験2：入院患者食用に大麦を3割添加した主食を4種類作成し，受容性評価を行った．

実験3：65歳以上の摂食嚥下困難高齢者に白米

またはもち麦を配合した主食を1週間提供し，摂取前後の糞便解析を行い，摂食嚥下困難高齢者の腸内細菌叢の乱れの予防または改善効果を調べた．腸内細菌叢の解析は実験1と同様に行った．平均値の差の検定は，Wilcoxonの順位和検定を行った．なお，実験1および3は，大妻女子大学生命科学研究倫理委員会および公益財団法人東京都保健医療公社東部地域病院の倫理審査委員会の承認を得てから実施した．

3. 結果と考察

実験1：＜腸内細菌叢の解析＞65歳以上の摂食嚥下困難者10名と一般高齢者10名の糞便の採取を行った．解析の際，重篤なディスバイオーシスを起こしていた2名を除外した．門レベルでは，一般高齢者と比較して，摂食嚥下困難者は，Verrucomicrobia門は有意に増加し，Firmicutes門の占有率は減少傾向（ $P=0.06$ ）だった．摂食嚥下困難者は，一般高齢者と比較しより高齢者型の腸内細菌叢に変化していた．属レベルの解析では，摂食嚥下困難者では一般高齢者で占有率の低い *Parabacteroides* 属が増加する一方，短鎖脂肪酸産生菌である *Faecalibacterium* 属，*Bifidobacterium* 属が低下していた． α 多様性において摂食嚥下困難者は，chaoとobserved_specisが有意に低下し， β 多様性では，一般高齢者と摂食嚥下困難者の菌叢が大きく違うことが明らかになった．＜食事調査＞一般高齢者の栄養摂取量は，食事摂取基準2015

年版と比較し、エネルギー摂取量は半数がやや不足気味、残りの半数はほぼ適正内であった。たんぱく質摂取量や脂質、炭水化物についてはほぼ適正值であったが、食物繊維量については平均 11g 程度しか摂れておらず、研究参加者のほとんどが目標量（70 歳以上男性 19g/日以上、女性 17 g/日以上）に達していなかった。入院高齢者の食物繊維摂取量はさらに少なく、一般高齢者の 60%程度しか摂取できていない現状が明らかとなった。

実験 2：公益財団法人東京都保健医療公社東部地域病院において、摂食嚥下機能が低下した患者に提供している主食を 4 種類（軟飯、全粥、嚥下調整食用粒あり粥、嚥下調整食用粒なし粥）それぞれに、もち麦を 3 割添加した介入試験食の開発を行った。さらに、普段から嚥下調整食に関わっている専門職に対し受容性評価を行った結果、受け入れは良好であった。

実験 3：摂取前後で採便できた被験者は各群 4 名であった。1 週間白米またはもち麦を摂取した際の摂取前後の腸内細菌叢の変化を調べた結果、Actinobacteria 門がもち麦群で増加し、米飯粥群との間に有意差が認められた。Firmicutes 門も同様の傾向が認められた($p=0.08$)。Actinobacteria 門で増えた菌属は *Bifidobacterium* 属($p=0.08$)と *Atopobium* 属($p<0.05$)であった。Firmicutes 門で増えた菌属は *Dorea* 属($p<0.05$)、*Coprococcus* 属($p=0.08$)であった。もち麦粥を 1 週間摂取することにより入院患者の腸内細菌の多様性が増し、高齢者で減少する菌属を増やすことができることが示された。

4. まとめと今後の課題

65 歳以上の摂食嚥下機能が低下した者に対し、大麦を含む主食と白米のみの主食をそれぞれ 1 週間摂取することで腸内細菌叢がどう変化するかを解析し検討した。当初は、各 10 名の被験者を確保する計画であったが、入院患者が少なく、しかも採便の同意が得られる高齢者が非常に少なかったため、4 例ずつの結果を解析した。統計的な有意差を出すには検出力不足ではあったが、これまでに例のない介入研究であるため、少数例でも重要なデータであると考えられる。

生活環境と食環境は強く関係しており、腸内細菌叢はそれらの影響を受ける。世界で古くから食されており、日本でもなじみ深い大麦という食材を用いることでそれらが良好に変化することが確

認できたことは大きな成果といえるのではないだろうか。さらに、病院という大量調理の現場でその食材をうまく活用するレシピやノウハウを示すことができたことも良い収穫となった。高齢者の栄養問題は深刻であり、超高齢社会に突入した日本にとってそれを解決することは急務である。本研究がその一助となれば幸いである。

主要参考文献

- [1] Sabine Bartosch, Alemu Fite, George T. Macfarlane, Marion E. T. McMurdo : Characterization of bacterial communities in feces from healthy elderly volunteers and hospitalized elderly patients by using real-Time PCR and effects of antibiotic treatment on the fecal microbiota American Society for Microbiology 10.1128/AEM.70.6.3575-3581.2004
- [2] 青江誠一郎：大麦 β -グルカンの機能性について 日本食生活学会 Vol.26 No.1(2015)
- [3] Dubourg G, Lagier JC, Armougom F, Robert C, Audoly G, Papazian L, Raoult D. High-level colonisation of the human gut by Verrucomicrobia following broad-spectrum antibiotic treatment. Int J Antimicrob Agents. 2013 Feb;41(2):149-55
- [4] Claesson MJ, Jeffery IB, Conde S, Power SE, O'Connor EM, Cusack S, Harris HM, Coakley M, Lakshminarayanan B, O'Sullivan O, Fitzgerald GF, Deane J, O'Connor M, Harnedy N, O'Connor K, O'Mahony D, van Sinderen D, Wallace M, Brennan L, Stanton C, Marchesi JR, Fitzgerald AP, Shanahan F, Hill C, Ross RP, O'Toole PW. Gut microbiota composition correlates with diet and health in the elderly. Nature. 2012; 488: 178-184.
- [5] Gaorui Bian, Gregory B. Gloor, Aihua Gong, Changsheng Jia, Wei Zhang, Jun Hu, Hong Zhang, Yumei Zhang, Zhenqing Zhou, Jiangao Zhang, Jeremy P. Burton, Gregor Reid, Yongliang Xiao, Qiang Zeng, Kaiping Yang, Jiangang Li. The gut microbiota of healthy aged Chinese is similar to that of the healthy young. September/October 2017 Vol.2 Issue 5 e00327-17

「プレコンセプションケア」に基づく、 将来の妊娠を見据えた若い男女の食教育の検討

A study based on preconception care :
dietary education for adolescents and young adults toward their future pregnancy

松下 小夏

Konatsu Matsushita

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修

キーワード：低体重児，栄養教育，BMI(体格指数)

Key words: Low-weight infant, Nutrition Education, Body Mass Index

1. 目的

少子化の進行している日本では，低出生体重児が増えたことが問題となっている．令和元年 11 月人口動態統計の概況によれば，低出生体重児の割合が，平成 28 年は 9.4%と過去 10 年ほど高止まりが続いている．国際的に見ても，日本は低出生体重児の割合が高く，先進国の中でも最も高いレベルに位置している．低出生体重児は，出産後の罹患率・死亡率のリスクが高くなり，その原因のひとつに女性のやせがある．20 代のやせ(BMI< 18.5 kg/m²)が 21.7 %とそれ以降の年代と比べて極めて高く，急速な改善が求められている．妊娠前に低体重であった女性は，体重増加量が適正体重の女性と同じであっても，早産や低体重児，低身長児出産する率が高いという報告もある．

妊娠前のやせに関する原因・背景を明らかにすることは，次世代の健康づくりのための環境整備，栄養の大切さを理解してもらう栄養指導法のあり方を提案できると推測される．

そのため，近年注目されている，女性やカップルが将来の妊娠を考えながら自分たちの生活や健康に向き合うという，妊娠前から低出生時予防の重要性を指導する考え方である「プレコンセプションケア(Preconception care)」に基づいた調査研究を行うことにした．プレコンセプションケアは，ヘルスリテラシーの向上によって将来の健全な妊娠・出産につなげることを目的としており，その活動内容は多岐にわたるが，日本においてはその中でも，若い女性のやせが目下の課題である．本研究では近年妊娠を

向える妊娠前の低体重が，出生体重の減少の原因の一つであること，そして，胎児や新生児，児の将来の健康に影響を及ぼしている報告に注目した．これまで，女子大学生の「やせ願望」に着目した様々な研究報告は行われている．さらに，妊娠可能な女性が，適正体重を維持できていない要因とその対策について検討することが重要と考えられた．妊娠前のやせ願望や体格に対する思い込みなどに注目し，女性自身あるいは，男女の異性に対する体格についての意識に着目した．さらに「プレコンセプションケア」という考えで自身とパートナーへの理解と協力によって健康な食生活，生活習慣を身につけ，体の健康を見直すための食教育を検討することを目的とした．

2. 方法

体重に関する意識調査と健康意識調査は，2019 年 4 月～2019 年 7 月の期間に 18 歳～30 歳の男性 500 人，女生 1,126 人を対象とした．形式は，任意性を確保し男性用・女性用に分けアンケートを実施した．内容は①年齢，身長②就労状況③同性に対して，スタイルが良いと思う体重・理想とする体重④異性に対して，スタイルが良いと思う体重・理想とする体重・パートナーに求める体重⑤妊娠・出産についての意識⑥生活習慣の意識(国立成育医療研究センターのプレコンセプションケア・チェックシートに基づき作成)⑦生理について(女性用のみ)の項目を設けた．③④に関して，男性 173 cm，女性 158 cmであった場合と想定し，回答してもらった．

3. 結果と考察

対象男性の平均 BMI 21.7kg/m^2 、理想とする BMI 21.7kg/m^2 、女性に望む理想 BMI 19.8kg/m^2 。対象女性の平均 BMI 20.2kg/m^2 、理想とする BMI 19.1kg/m^2 、男性に望む理想 BMI 22.6kg/m^2 であった。男女共に現体重は、異性が理想とする体重よりも低値であった（表 1）。現在適正体重を維持している男性は約 85%，女性約 50% であったが、意識調査では適正体重を維持していると感じている男性 28.6%，女性 24.2% であった。パートナーに望む体重を比較すると、男性では 25.1% がパートナーの女性に対して BMI 18.5% 以下を望み、痩せの女性をパートナーに希望する者が多いことが明らかとなった（表 2）。妊娠に適正な体重（ $18.5\text{kg/m}^2 \leq \text{BMI}$ ）から外れている女性が多く、女性自身が理想とする体重、男性が女性に対して理想とする女性の体重よりも低値であった。男性は、現在の体重（ $64.2 \pm 9.2\text{kg}$ ）を理想体重よりも 0.64kg 軽いと判断している。女性は、現在の体重（ $50.6 \pm 6.8\text{kg}$ ）を理想体重よりも 3.03kg 重いと判断していることが明らかとなり、女性は男性に比較して、有意に現体重よりも軽い体重を望んでいることが明らかとなった。（表 3）。意識調査では、将来の妊娠・出産をライフプランとして考えている者・考えていない者を比較すると、自分の適正体重を知っていると答えた者の割合、異性に対して理想とする BMI の平均値にはほぼ差がみられなかった。このことから、妊娠・出産を検討していることの有無に関わらず、自身・パートナーの適正な体重の認識に乏しいことが予想された。このことから、プレコンセプションケア食教育は、異性の体重について理解する必要があると考えられた。

表 1. 異性の体重に対する意識とスタイルが良い・理想とする・パートナーに望む BMI (kg/m^2)について
(男性は、同性の身長 173cm に対して 女性は、同性の身長 158cm に対して)

スタイルが良いBMI 理想とするBMI パートナーに望むBMI				
男性	意識するBMI	19.5±1.8	19.8±1.7	19.8±1.6
	意識しない	46.6	57.0	57.0
女性	意識するBMI	21.2±1.6	21.5±1.9	21.6±1.7
	意識しない	58.3	55.9	54.8

表 2. パートナーに望む BMI (kg/m^2) の比較 (%)

	<18.5	18.5 ≤ ~ <25	25 ≤
男 性	25.1	74.8	0
女 性	4.0	90.9	5.1

p < 0.0001

表 3. 男性がパートナーに望む BMI と女性が理想とする BMI の関係

男性が望む理想体重	現体重は、理想の体重よりも $-0.64 \pm 7.8\text{kg}$
女性が望む理想体重	現体重は、理想の体重よりも $+3.03 \pm 5.74\text{kg}$

p < 0.0001

表 4. 性別による生活習慣・体重への意識と BMI の関係について

	男性			女性		
	はい	いいえ		はい	いいえ	
将来の妊娠・出産をライフプランとして考えていますか	21.6 ± 2.5	21.7 ± 2.9	NS	20.0 ± 2.2	20.6 ± 2.9	NS
将来の自分の健康を意識していますか	21.8 ± 2.6	21.1 ± 2.7	NS	20.2 ± 2.5	20.0 ± 2.3	NS
自分の適正体重を知っていますか	21.8 ± 2.8	21.5 ± 2.5	NS	20.5 ± 2.6	19.5 ± 1.7	NS
適正体重をキープしていますか	21.5 ± 2.2	22.0 ± 3.0	NS	19.8 ± 1.3	20.4 ± 2.8	NS
アルコールを控えていますか	21.7 ± 2.6	22.0 ± 2.8	NS	20.4 ± 2.6	20.0 ± 2.3	NS
ストレスを溜め込んでいませんか	21.5 ± 2.5	22.0 ± 2.9	NS	20.1 ± 2.1	20.4 ± 2.7	NS

4. まとめと今後の課題

妊娠可能な世代の女性において、自身が望む体重が軽く、パートナーに望まれる体重も軽いことが分かった。この状況が続くと、新生児の健全な発育に影響を及ぼす可能性が示唆された。

プレコンセプションケアの正しい知識と意識を教育するためには、パートナーと共に互いの体重の正しい理解と将来の妊娠出産を視野に入れた食生活や生活環境に関する教育が重要と考えられた。

主要参考文献

- [1] 周産期栄養の次世代への影響
助産雑誌 第 70 巻 第 6 号 430~436 頁
- [2] 妊娠前の母親の食生活・栄養状態と低体重児出産との関連
日本家政学会誌 Vol.53 No.10 1090~1020 頁(2002)
- [3] 母子保健対策にむけた若い世代の食生活とライフスキルの検討
岡山県立大学保健福祉学部紀要 第 24 巻 1 号 41~48 頁 (2017)
- [4] 低出生体重児の母体要因に関する疫学研究
「厚生」の指標 第 61 巻第 1 号 1~8 頁(2014)

マウスを用いた大麦摂取による糖代謝・脂質代謝に関する

腸管—肝臓—脂肪組織間のクロストーク分析

Analysis of crosstalk among intestine-liver-adipose tissue
on the glucose and lipid metabolism in mice fed barley supplemented diet

三尾 建斗

Kento Mio

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修

キーワード：大麦， β -グルカン，水溶性食物繊維，DNAマイクロアレイ，短鎖脂肪酸Key words : Barley, β -glucan, Soluble dietary fiber, DNA microarray, Short-chain-fatty acid

1. 背景及び目的

以前から日本人の主食として食べられている大麦には食物繊維が豊富に含まれており、その中でも水溶性食物繊維である「 β -グルカン」にはこれまで耐糖能改善作用や血清コレステロール低下作用、腸内環境の改善作用等、様々な生理機能が報告されてきた。しかしながら、その遺伝子レベルでのメカニズムは解明できない部分が多く、臓器間でのクロストーク作用があるのか、またそれらを仲介する分子については不明なままであった。そこで本研究では β -グルカンを含有する大麦を含めた高脂肪食をマウスに摂取させ、糖代謝・脂質代謝に及ぼす影響について表現型を確認すると共に臓器に発現する遺伝子を網羅的に分析できるDNAマイクロアレイ解析を行う事で、糖代謝・脂質代謝に関する各臓器内での遺伝子の変動を確認し、臓器間のクロストークの存在を検証する事を主目的とした。

2. 方法

[Exp1：大麦 β -グルカンの摂取がマウスの糖、脂質代謝に及ぼす影響] 5週齢のC57BL/6Jマウスを用いた。実験飼料はAIN93-G組成を基本とし、脂肪エネルギー比が50%の高脂肪食となるようラードを添加した。総食物繊維量が5%になるようにセルロースを添加したものを対照群としてC群とし、中程度の β -グルカンを含有する品種のBG012を総食物繊維量が5%になるようにコーンスターチと置換したものをMB群、並びに β -グルカンを高含有する大麦（BF）を添加したものをHB群とした。

（各群n=10）.試験10週目に8時間絶食後20%グルコース溶液を投与し耐糖能試験を実施した。実験飼料を12週間投与した後、8時間絶食後にマウスを解剖し、糖代謝、脂質代謝の表現型指標を測定した。加えて、回腸、肝臓、脂肪組織から遺伝子を採取しDNAマイクロアレイ分析を実施（MB群は除く）して網羅的に遺伝子発現量を分析し、大麦の摂取による各代謝の遺伝子レベルでの代謝変動の影響をC群とHB群で比較検討した。その後q-PCRを用いて各代謝に関わる主要酵素のmRNA発現量を定量分析した。

[Exp2：抗生物質を投与させたマウスの大麦 β -グルカンの摂取による代謝改善作用の確認] Exp1の結果より、大麦の摂取によって腸内で β -グルカンが腸内細菌によって発酵され、産生される短鎖脂肪酸がクロストークのメディエーターとして肝臓、脂肪組織の糖、脂質代謝に影響を及ぼしている可能性が考えられた。そこで、Exp1と同様C57BL/6Jマウスに、固形飼料と4種類の抗生物質を飲料水と混合した抗生物質混合液又は正常群として通常の飲料水を4週間摂取させた後、Exp1と同様の飼料（MB群は除く）をそれぞれ1群7匹の対象-飲料水群（以下NC）、BF-飲料水群（以下NB）、対照-抗生物質水（AC）、BF-抗生物質水（AB）の4群に分け、Exp1と同一の試験環境にて10週間実験飼料と抗生物質混合水又は飲料水を投与した。試験9週目にExp1と同様の条件で耐糖能試験を実施した。試験10週目にマウスを解剖し、実験①と同様の指標を測定した。

3. 結果と考察

[Exp1]: マウスの成長結果は各群同等であったが、肝臓、腹腔内脂肪重量は β -グルカンの用量依存的に減少し、盲腸重量及び盲腸内容物中の酢酸、プロピオン酸、総短鎖脂肪酸量は β -グルカンの用量依存的に増加した。血清生化学分析において、総-コレステロール(CHO)、LDL-CHO 濃度はC群、MB群と比較してHB群で有意に低下した。レプチン濃度はC群と比較してHB群で有意に低値を示した。また、総-CHO、LDL-CHO、トリグリセリド(TG)、インスリン濃度、レプチン濃度において β -グルカン含量の用量依存性が示された。耐糖能試験では投与後15分値、投与60分後ならびに血糖-時間曲線下面積(AUC)はC群と比較してHB群で有意に低値を示した。肝臓TG、CHO量はC群と比較してHB群が有意に低値を示した。これらの結果より大麦 β -グルカンの摂取により、糖代謝、脂質代謝の表現型指標はこれまでの報告と同様に改善する事が確認された。

次にDNAマイクロアレイ分析において、糖代謝経路に関わる遺伝子発現は回腸、肝臓、脂肪組織のいずれも大きな変動は示さなかったが、脂質代謝ではステロイド合成経路、脂質合成経路に関わる遺伝子発現量が肝臓、脂肪細胞共にC群と比較して一貫して低下している事が示され、HB群における肝臓脂質濃度の低下や内臓脂肪の低下はこれらの遺伝子発現が全体的に減少している事が大きく寄与していると考えられた。また、q-PCRでも肝臓、脂肪組織において同様の結果が得られ、脂肪組織では炎症反応に関わるMCP-1、NADPH オキシダーゼサブユニット P67^{phox}、F4/80がHB群で有意に低下した。また盲腸内容物中の有機酸と各組織の遺伝子間で相関性が示され、肝臓では主に酢酸、プロピオン酸と脂質合成関連酵素のDGAT1、DGAT2や脂肪酸輸送に関わるCPT1、胆汁酸合成に関わるCYP7a1間で負の相関関係が認められた。また、脂肪組織ではプロピオン酸とホルモン感受性リパーゼ(HSL)間に正の相関関係が示された。以上のことから、大麦を摂取した事により消化管で産生された代謝産物である短鎖脂肪酸が肝臓、脂肪組織のクロストークのメディエーターとして作用している事が示唆された。

[Exp2]: 抗生物質水を投与されたマウスは好気性、嫌気性菌数が飲料水を飲んだマウスと比較して著しく減少し、代謝産物である短鎖脂肪酸も著

しく低下したことから、抗生物質の投与によって腸内細菌がかなり死滅した事が示された。終体重、体重増加量、飼料効率、は飲料水群では大麦の摂取によって有意に低下したが、抗生物質を摂取したAC群とAB群では大麦の効果が確認されなかった。この事により、大麦の摂取による上記表現型の改善には腸内細菌叢の影響が大きく寄与している事が考えられた。また、血清中のT-CHO、LDL-CHO、肝臓トリグリセリドへの効果は抗生物質の有無に関わらず、大麦の摂取によって減少したことから、上記指標の低下作用は腸内細菌の発酵による作用ではなく、主に消化吸収への影響が寄与している可能性が考えられた。耐糖能試験ではNC群とNB群では投与0分、60分、120分、AUC値がNB群で有意に低下し、Exp1と同様の効果が確認できたが、抗生物質を投与したAC、AB群では全ての項目に有意差は見られなかった。以上より大麦 β -グルカンによる耐糖能改善効果は栄養素の消化吸収遅延効果よりも消化管での腸内細菌叢の影響が大きく関与していると考えられた。脂肪組織のq-PCRではExp1と同様にNB群がNC群と炎症反応に関わる遺伝子の低下が示され、HSLもNB群で有意に増加した。しかしAC群とAB群では各群有意差は見られなかった。また、NC、NB群の盲腸内容物中の短鎖脂肪酸との相関分析では、HSLと盲腸内プロピオン酸、に正の相関傾向($P=0.06$)、酢酸とで有意な正の相関性($P<0.05$)が見られたが、AC、AB群では有意な相関は見られず、関係性は弱まった。これらのことから、HSLのは発現に短鎖脂肪酸が直接寄与している可能性が示された。

4. まとめと今後の課題

本研究では、大麦 β -グルカンの摂取が糖代謝、脂質代謝に及ぼすメカニズムについて、糖代謝・脂質代謝に関する各臓器内での遺伝子の変動を確認し、臓器間でクロストークを検討した。結果として、大麦 β -グルカンの摂取により消化管で産生される短鎖脂肪酸が消化管を通して糖代謝、脂質代謝にクロストーク作用を及ぼす事が示唆され、糖代謝は主にホルモンレベルで作用し、脂質代謝は肝臓、脂肪組織において遺伝子レベルで一貫して改善作用を示すことが考えられた。しかしながら一部は消化吸収レベルでの作用も考えられたため、詳しいメカニズムについては、腸管内の代謝産物の解析や短鎖脂肪酸受容体欠損マウス等を用いて検討していく必要があると考えられる。

特定保健指導において管理栄養士に求められるスキルに関する研究

Research on skills required for registered dietician in specific health guidance

毛利 英美子

Emiko Mori

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修

キーワード：特定保健指導，管理栄養士，保健師

Key words : Specific Health Guidance, Registered dietician, Public health nurse

1. 目的

特定健康診査・特定保健指導とは、「高齢者の医療に関する法律」に基づき 2008 年から開始された糖尿病、高血圧等の生活習慣病の予防を目的とした制度である。リスクに応じて対象者を「情報提供」、「動機づけ支援」、「積極的支援」に階層分けし、支援を行う。「動機づけ支援」及び「積極的支援」での支援は、1 年後の健診時までの行動計画を策定する「初回面接」から始まるが、「初回面接」は、食事、運動をはじめとする生活習慣に関連した行動改善計画を策定する重要な場面であり、基本的に医師、保健師または管理栄養士の面接による指導の下に行うとされている。管理栄養士の場合であっても、運動や喫煙を含む生活全般の指導を行える必要がある。

2018 年 4 月に厚生労働省から発出された「健診・保健指導の研修ガイドライン」^[1]では、専門分野以外の指導力について指摘されているが、専門性の違いによる具体的な指導力の差について検討がされた先行研究はない。本研究では、専門性の違いによる指導力の違いについて、食事、運動等、特定保健指導に関連する分野の習得度を調査し、管理栄養士が強化していかなければならない分野を明らかにし、その背景を探ることにより、指導力向上への足がかりとなることを目的とした。

2. 方法

研究 1 では、専門性の違いによる指導力の違いを確認するため、特定保健指導を行う管理栄養士、保健師を対象として、2018 年 7 月から同年 9 月にかけて質問票によるアンケートを実施した。得られた回答を元にデータベースを作成し、習得度については、「低い」、「高い」の 2 群に分け、管理

栄養士と保健師の習得度の違いを比較した。

研究 2 では、研究 1 でみられた管理栄養士と保健師の違いが何に由来しているのかを確認するため、養成課程に注目し、モデル・コア・カリキュラム^{[2][3]}の検討を行った。特定保健指導に関係すると思われる学習内容がそれぞれの養成課程でどの程度扱われているのかをキーワードを抽出して比較した。

3. 結果と考察

研究 1：管理栄養士 48 名、保健師 30 名から回答を得た。

[対象者の属性] 年齢は、管理栄養士、保健師ともに 30 代が最も多く、特定保健指導業務歴は、管理栄養士では 8 年を超える者が多かったが、保健師では 3 年以下の者が多かった。勤務先は、管理栄養士、保健師ともに特定保健指導受託企業の者が多く、勤務形態は常勤者が殆どであった。これらの属性に関して、管理栄養士、保健師の間に有意な差はみられなかった。

[指導分野別の習得度について] 管理栄養士と保健師の間で有意な差がみられた食事指導、運動指導、喫煙指導の 3 分野の結果について表 1 から表 3 に示す。管理栄養士、保健師の間で有意差がみられなかった特定保健指導全般についての質問項目では、すべての項目で約 90%の者が習得度が「高い」を選択していた。同様に飲酒指導についても、両職種の習得度が高い傾向にあった。全体的に習得度が高い傾向にあった理由として、今回使用した質問票を作成する際に参考とした質問票が初任者（保健指導経験年数 1～2 年目）対象のものであったことが関係しているのではないかと考えられる。

表 1. 食事指導について

質問項目	職種	習得度		P 値
		低い	高い	
食行動と食事をアセスメントし、食習慣改善の必要性を判断できる(n=78)	管理栄養士 保健師	1(2.1%) 4(13.3%)	47(97.9%) 26(86.7%)	0.069 ^a
対象者の健康課題と生活習慣に合わせて、食生活の多様な取り組みの具体策を提案することができる(n=78)	管理栄養士 保健師	2(4.2%) 6(20.0%)	46(95.8%) 24(80.0%)	0.033 ^a
調理方法に関する提案ができる(n=78)	管理栄養士 保健師	4(8.3%) 12(40.0%)	44(91.7%) 18(60.0%)	0.001
市販の総菜を活用した提案ができる(n=78)	管理栄養士 保健師	2(4.2%) 11(36.7%)	46(95.8%) 19(63.3%)	<0.001
対象者の生活している環境に配慮した食物入手の方法が提案できる(n=78)	管理栄養士 保健師	4(8.3%) 8(26.7%)	44(91.7%) 22(73.3%)	0.033 ^a
設定した行動目標を実行すれば、どの程度の減量効果が期待できるか、エネルギー量に換算して示すことができる(n=78)	管理栄養士 保健師	3(6.3%) 5(16.7%)	45(93.8%) 25(83.3%)	0.138 ^a

a.Fisher の直説法

表 2. 運動指導について

質問項目	職種	習得度		P 値
		低い	高い	
身体活動基準 2013、アクティブガイドの内容を理解している(n=78)	管理栄養士 保健師	9(18.8%) 11(36.7%)	39(81.3%) 19(63.3%)	0.078
Mets の意味を理解している(n=77)	管理栄養士 保健師	7(14.9%) 5(16.7%)	40(85.1%) 25(83.3%)	0.538 ^a
身体活動量・運動量をアセスメントし、運動習慣改善の必要性を提案することができる(n=78)	管理栄養士 保健師	2(4.2%) 6(20.0%)	46(95.8%) 24(80.0%)	0.033 ^a
対象者の健康課題と生活習慣に合わせて、身体活動の多様な取り組みの具体策を提案することができる(n=78)	管理栄養士 保健師	6(12.5%) 7(23.3%)	42(87.5%) 23(76.7%)	0.212
指導できる運動や生活活動のバリエーションは対象者の年齢階層に応じたものである(n=78)	管理栄養士 保健師	9(18.8%) 9(30.0%)	39(81.3%) 21(70.0%)	0.251
運動習慣のある対象者に対する運動に関する適切な指導ができる(n=78)	管理栄養士 保健師	11(22.9%) 9(30.0%)	37(77.1%) 21(70.0%)	0.486
設定した身体活動・運動目標を実践すれば、どの程度の減量効果を期待できるかエネルギー量に換算して示すことができる(n=77)	管理栄養士 保健師	7(14.9%) 5(16.7%)	40(85.1%) 25(83.3%)	0.538 ^a
健診結果や病歴から運動実施上の注意事項を説明できる(n=78)	管理栄養士 保健師	3(6.3%) 2(6.7%)	45(93.8%) 28(93.3%)	0.642 ^a

a.Fisher の直説法

表 3. 喫煙指導について

質問項目	職種	習得度		P 値
		低い	高い	
電子タバコ、加熱式タバコ、燃焼タバコの違いを理解している(n=78)	管理栄養士 保健師	12(25.0%) 4(13.3%)	36(75.0%) 26(86.7%)	0.241
喫煙習慣や禁煙に対する行動変容ステージをアセスメントできる(n=77)	管理栄養士 保健師	11(23.4%) 2(6.7%)	36(76.6%) 28(93.3%)	0.056
行動変容ステージに合わせた禁煙指導ができる(n=78)	管理栄養士 保健師	16(33.3%) 4(13.3%)	32(66.7%) 26(86.7%)	0.049

研究 2: 保健師のモデル・コア・カリキュラム^[3]には、特定保健指導の内容に関する個別の記載がなかったため、保健師になる過程で必要となる看護師のモデル・コア・カリキュラムと管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムについて比較を行った。結果を表 4 に示す。看護師のモデル・コア・カリキュラム^[4]では、看護の視点から対象者一人一人を包括的にとらえたカリキュラムとなっており、管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムでは、栄養を中心とし患者だけでなくその他の人々も対象としたカリキュラムとなっていた。

表 4. モデル・コア・カリキュラム内の項目数

指導分野	管理栄養士	看護師	検索に用いた単語
食事	※	7項目	栄養、食事
運動（身体活動）	1項目	1項目	運動、身体活動
喫煙	該当なし	1項目	喫煙
飲酒	該当なし	2項目	飲酒
その他（特定保健指導）	1項目	1項目	特定保健指導、メタボ

※数が多すぎるため省略

4. まとめと今後の課題

1. 食事指導では、管理栄養士は保健師と比較して習得度が高い項目があった。
2. 運動指導では、両職種の習得度に差はなかった。管理栄養士養成課程のカリキュラムでも身体活動や運動について取り扱っているが、健康運動指導士などの資格を取得している者もいた。
3. 喫煙指導では、保健師に比べ管理栄養士の習得度が低い項目があり、管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムでの取り扱いがなかった。管理栄養士の中には禁煙サポーターの認定資格を持っている者もいた。
4. 飲酒指導では、両職種の習得度に差はみられなかったが、管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムでは取り扱いもなかった。

本研究の課題として、調査対象者数が限られており、研究結果を一般化する上では更に調査対象人数や対象者の所属先の均等化および調査地域を増やしていく必要がある。また、習得度の評価については、客観的指標を組み合わせることにより、より確実な状況の把握に繋がるものと考え。

本研究の結果から、職種や業務経歴により研修の内容を組み変えることができるような仕組みを考え、より効果的な特定保健指導につなげていきたい。

主要参考文献

- [1] 厚生労働省：「健診・保健指導の研修ガイドライン」（平成 30 年 4 月）
- [2] 特定非営利法人日本栄養改善学会理事会：「管理栄養士要請過程におけるモデルコアカリキュラム 2015」の提案（平成 27 年 8 月 29 日）
- [3] 一般社団法人全国保健師教育機関協議会：「公衆衛生看護学教育モデル・コア・カリキュラム（2017）」（平成 30 年 3 月）
- [4] 大学における看護学系人材養成の在り方に関する検討会：看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士過程においてコアとなる看護実践能力」の習得を目指した学習目標～（平成 29 年 10 月）

0歳児クラスの保育における保育者の視線の意味

Significance of looking of childcare workers in young infant classes

星野 優芽

Yume Hoshino

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 保育・教育学専修

キーワード：保育，保育者，視線，乳児

Key words：Childcare, Childcare worker, Looking, Infant

1. 問題と目的

保育は、「子ども理解」→「ねらい」→「手立て」→「評価（子ども理解）」というサイクルとして捉えることができ（岡，2019），その起点となる「子ども理解」が重要である。「子ども理解」とは，子どもの事実を拾いさらにそこからその子どもの育ちを解釈することであるが，0歳児クラスにおいては子どもが自在に言葉を扱うことができないため，非言語的な表出を事実として捉える必要がある。本研究では，そうした非言語的な表出を捉える保育者の視線に着目する。小沢・遠藤（2001）は養育者と子どもの関係の中にある視線をとらえ，社会的参照の発達プロセス（巻き込まれ型の社会的参照→相補型の社会的参照→自律型の社会的参照）を見出した。

そこで本研究においては上記の3つの型を思考モデルとし，0歳児クラスの保育における保育者と子どものやりとりの実態と，そうしたやりとりにおける保育者の視線の実態を明らかにすることを目的としている。そこから保育者の意図がどのように存在しているのかを検討し，その上で，保育者の視線が0歳児クラスの保育における専門性として，どのような意味を持っているのかを考察している。

2. 研究方法

＜対象＞

保育所0歳児クラスの子ども12名と担任保育者1名

＜手続き＞

石橋ら（2018）の研究を参考に，ウェアラブルアイトラッカー（Tobii Pro グラス 2）を用いて保育中の保育者の視線を計測し，同時に保育者の視

野に映る子どもの非言語的な表出を記録する。加えて，ICレコーダーを用いて音声を収集し，ビデオカメラを用いて保育者の表情を記録する。

＜データの整理＞

収集したデータから，子どもと保育者との関わりをエピソードとして文字に起こし，その実態をやりとりとして表に整理した（総エピソード数196例，総やりとり数385例）。

やりとりの分類においては小沢・遠藤（2001）を，やりとり中の保育者の意図においては篠原（2006）を思考モデルとして検討した。

3. 結果

3. 1. 子どもと保育者のやりとりの実態

やりとりの分類においては“子どもが保育者に向ける視線”（自律的な視線，相補的な視線，巻き込まれ的な視線）と“子どもと保育者の関係性”（自律型の関係，相補的な関係，巻き込まれ的な関係）の2つの観点から分類した。その結果，子どもと保育者のやりとりは，以下の6つに分類できることが明らかになった。

自律型：自律的な視線，自律型の関係

自律的相補型：自律的な視線，相補型の関係

相補的自律型：相補的な視線，自律型の関係

相補型：相補的な視線，相補型の関係

巻き込まれ的な相補型：巻き込まれ的な視線，

相補型の関係

巻き込まれ型：巻き込まれ的な視線，

巻き込まれ型の関係

3. 2. 視線に見る保育者の意図性

実際のやりとりにおいて，視線は図1のように存在すると考えられる。

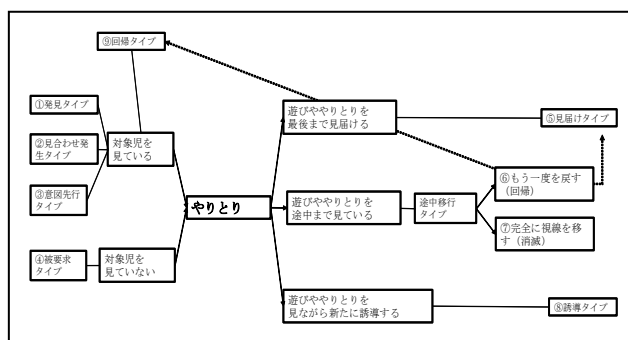


図1. やりとりに係る保育者の視線の実態

- ①：既に対象児のみ、もしくは対象児とその遊びを見ている
- ②：意識、無意識に関わらず対象児のふり返りが生じる
- ③：意図を対象児に向けることでやりとりが始まる
- ④：対象児から働きかけられることによって保育者が視線を向ける
- ⑤：遊びややりとりを最後まで見届ける
- ⑥：遊びややりとりの途中で、保育者が意図を別の対象（保育者や子ども）に移行し、その後再び当初の対象児に戻る
- ⑦：移行したまま別の対象に視線を向け続ける
- ⑧：遊びややりとりを見ながらも新たな遊びや行為へ誘導する
- ⑨：途中移行タイプの視線の後、再び同じ対象児のもとに戻る

3. 3. やりとりの型と保育者の視線の関連

やりとりの型と保育者の視線の関連を整理すると、図2. のようになる。

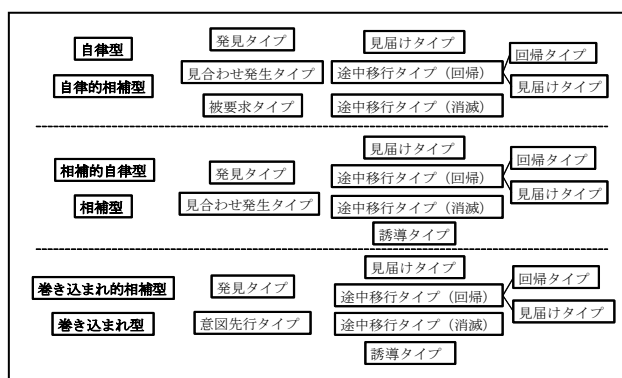


図2. やりとりの実態と保育者の意図性

保育者が子どもに視線を向けていることでやりとりが始まるのは、その働きかけの意図を既に有した状態で子どもに視線を向けていると考えられる。もしくは視線自体は無意識的であっても、子

どもの姿を捉え、その子どもに触発されるようにやりとりが生まれ、そこに保育者の意図や思いが込められることで日々の保育がなされていくと考えられる。

4. 考察

やりとりとそれに絡む保育者の視線は、保育における専門性としての意味を持つと考えられる。

まず、やりとりにおける「自律型」「相補型」の働きかけと、それに伴う「発見タイプ」「見合わせ発生タイプ」「被要求タイプ」の視線は、子どもの姿を保育者が捉える視線となり、子どもの事実を拾い、そこからどのような遊びをしているのか、何をどのように楽しんでいるのか、そこからどのような力が育っているのかを捉えるため、「子ども理解」としての意味を持つ。次に、やりとりにおける「相補型」「巻き込まれ型」の働きかけと、それに伴う「意図先行タイプ」「誘導タイプ」の視線は保育者が意図を持ったうえで働きかけるため、「手立て」としての意味を持つ。最後に、やりとりが終わる際に見られる「見届けタイプ」の視線は、子どものやりとり後に対象への向かう姿に注目し、そのやりとりにおける「評価」としての意味を持つ。

このように0歳児クラスの保育においては、保育者の視線がその専門性としての意味を持って存在していると言える。

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所平成31年度大学院研究助成（B）課題番号DB1920「0歳児クラスの子どもの理解における保育者の視線の役割」を受けて行ったものである。

主要参考文献

- [1] 岡健編著(2019)「演習 保育内容 環境 ―基礎的事項の理解と指導法―」建帛社
- [2] 石橋美香子・高橋翠・野澤祥子(2018)「食事場面における保育士の視線行動の探索的検討 ―ベテラン保育士は顔を見ない?―」『信学技報』, HIP2018-55(2018-08)69-72
- [3] 小沢哲史・遠藤利彦(2001)「養育者の観点から社会的参照を再考する」『心理学評論』(44-3):271-288
- [4] 篠原郁子(2006)「乳児を持つ母親におけるmind-mindedness 測定方法の開発 ―母子相互作用との関連を含めて―」『心理学研究』(77-3)244-252

『大斎院前の御集』に見られる生活と和歌

The life and wakas seen in “Ôsai-in saki no gyo-shû”

白鳥 快枝

Yoshie Shirotori

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 日本文学専修

キーワード：大斎院，選子内親王，斎院サロン

Key words：Ôsai-in, Princess Senshi, Sai-in salon

1. 目的

本研究の目的は、『大斎院前の御集』（以下、『前の御集』と略す）に見られる生活と文学のありようを考えることである。

後に大斎院と称される村上天皇の第10皇女選子内親王（以下、選子と略す）は、12歳で第16代賀茂斎院に卜定され68歳で退下するまで、5代の天皇（円融，花山，一条，三条，後一条）の57年間に斎院として奉仕した。

斎院とは、賀茂神社に奉仕した未婚の内親王または女王のことである。その居所も斎院と呼ばれ、文芸サロンになることもあった。

『前の御集』は、選子20歳から22歳までの約3年間（永観元年〈983〉から寛和元年〈985〉）の暮らしぶりを詠った、斎院サロンを場とした歌集である。

本研究では、どのような場で、いかなる契機によって歌が詠まれたのかを整理・検討し、選子と女房達のそれぞれの役割を明確にする。それにより多様に収載された和歌の意義づけをはかり、『前の御集』の性格も明らかにしていく。

2. 方法

先行研究を基に『前の御集』所収の394首の歌を、154の歌群に分け、次のように詠歌の場と契機に分類する。その上で、それぞれの場における選子と女房達の役割と、詠歌について詳細に見る。

【詠歌の場と契機の分類】

- I 選子御前の場・・・・・・・・・・ 75群
① 選子主導の場・・・・・・・・・・ 71群
⑦ 選子が独自に出題・・・・・・・・ 14群

- ① 選子を付度して女房が出詠・・・・・・・・ 42群
⑦ 里居の女房との贈答・・・・・・・・ 15群
② 女房主導の場・・・・・・・・ 4群
⑤ 女房の様子から選子が出題・・・・・・・・ 4群
II 選子不在の場・・・・・・・・ 25群
③ 女房同士のやり取り・・・・・・・・ 17群
④ 斎院で・・・・・・・・ 6群
⑦ 里居する女房と・・・・・・・・ 11群
④ 斎院司の職員との交流・・・・・・・・ 8群
III 選子不在の場から選子御前へ・・・・・・・・ 5群
IV 外部の人との交流・・・・・・・・ 20群
V 選子御前であるか不明の場・・・・・・・・ 29群

3. 詠歌の場の考察と結果

【⑦選子が独自に出題の場】

- 二十日ばかりの月、雲薄らかにかかりける、
梅の木の間より漏りたるが、いとをかしき
を、御覧じて
260 木の間分け漏りたる月の影見てぞ来るも過ぐるも秋は知らるる
宰相
261 過ぐる秋はそのみやきのの木の間より漏る月影の誘ふなりけり
262 嘆くとも木の間の月のなかりせば秋に心を尽くさましやは

*本文、歌番号は『新編国歌大観』による

下線⑦より、260番歌は選子の歌だとわかる。秋の夜、月見をしながら選子は『古今集』の歌「木の間より漏りくる月の影見れば心づくしの秋は来にけり（184）」を想起し歌を詠み、女房達に題を示す。即座に主人の意図を理解した上臈女房の宰

相が、「過ぎる秋もわかるのですね」と「相槌の歌」を詠む。続けてもう1首、古今集歌から「心づくし」の部分を取上げ、より情緒的な歌を詠む。下線部のように、選子の歌で使われた歌語を、宰相も自分の歌に詠み入れることで、主従が相和して文芸サロンの雰囲気を作り出している。

このように、全ての場を考察した結果は、以下の通りである。

- (1) 詠歌の基本的なパターンは「その場の状況把握→『古今集』等の歌の想起→出詠」である。
- (2) 歌材はほとんどが景物であるが、選子不在の場、選子御前であるか不明の場では、女房同士の諍い、蔵人の足音、殿上人の噂話等、風変わりな題材で歌が詠まれることがある。
- (3) 齋院サロンでは選子が指導的役割を果たしており、宰相、進、馬の3人の女房達が選子の意向を汲み、詠歌の場で活躍している。
- (4) 里居の女房とは、物の贈答の際に、歌も詠み交わす。選子が直接歌の贈答をすることはないが、意向を受けた宰相、進等の女房が代理で歌を詠む。女房間では、気心の知れた者同士の、軽口の応酬となることもある。
- (5) 齋院司の職員とは、女房の一人が齋院を代表して歌の贈答をする。この場合女房の名前は記されない。
- (6) 外部の人々とは、近い親戚に限り選子が直に歌の贈答をする。その他の人々に対しては、当意即妙に歌が詠める女房達が対応している。

4. 『前の御集』の性格

- i 私家集に分類されるが、選子個人の家集ではなく、選子と女房達が核となる齋院サロンの歌集である。
- ii 四季別の編纂方法が採用され、上巻に春夏の歌を、下巻に秋冬の歌を配そうとした意図が見えるが、現存の写本は錯簡や本文の乱れがある。本研究では、原態は上下巻が同量になるよう編集された歌集である可能性を指摘した。
- iii 歌材、歌語、詠歌の基本的なパターンから、『古今集』を踏襲していることを確認した。
- iv 齋院サロンは、隔絶された聖域内にあるという特殊性と、後宮や内親王家サロンとの類似性の両方を合わせ持ち、それが『前の御集』の性格にもなっている。
- v 『前の御集』所収の歌の大部分は、詞書とセッ

トではじめて理解可能になる「褻の歌」である。

5. まとめと今後の課題

この時代、選子と女房達は、齋院の生活が57年もの長期に及ぶとは考えていなかった。『前の御集』成立の背景には、暮らしの隅々までを歌によって残したいと願う、選子の意向があったと考える。通常の歌集には見られない、風変わりな題材の歌が書き留められたのもそのためであろう。

歌は選子と女房達にとって、あるときは喜びであり、慰めであり、祈りであり、日常のおしゃれな会話であり、生活のあらゆる場面を記録することができる道具でもあった。「写真」を撮るように歌を詠み、「卒業アルバム」のように歌集に仕立てたのではないかと考える。齋院退下後の心の支えとして、手元に置くためである。齋院から去っていく女房達にも渡していたのであろう。『前の御集』は、当初はあくまでも、選子とサロンの人々のために作られたものと考えられる。

その後、対外的に齋院の存在感を示す必要に迫られ、いつ頃、どのような経緯で流布されたかについては、これからの課題としたい。

今後は、選子の齋院サロンの周辺の文学と、歴史学にも気を配りつつ、『大齋院御集』の研究に進みたい。また、本研究において十分とは言えない歌の修辞と歌語の理解にも努める所存である。

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成（DB1908）を受けたものである。

主要参考文献

- [1] 秋葉安太郎・鈴木知太郎・岸上慎二「大齋院前の御集の研究-いはゆる馬内侍歌日記-」（『日本大学創立七十年記念論文集 第一巻 人文科学編』1960年）
- [2] 『日本大学本大齋院前の御集』（日本大学図書館編、1962年）
- [3] 石井文夫・杉谷寿郎『大齋院前の御集注釈』（私家集注釈叢刊12、貴重本刊行会、2002年9月）
- [4] 天野紀代子・園明美・山崎和子『大齋院前の御集全釈』（私家集全釈叢書37、風間書房、2009年5月）
- [5] 所京子『齋王研究の史的展開 伊勢齋宮と賀茂齋院の世界』（勉誠出版、2017年1月）

『大和物語』からみる婚姻と居住形態

The marriage and the residence form to see "Yamato story"

武富 理沙子

Risako Taketomi

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 日本文学専修

キーワード：平安時代，婚姻，居住，呼称

Key words：The Heiann era, Marriage, Residence, Name

1. 目的

平安時代の婚姻や男女関係が物語ではどのように描かれているのか、及び夫婦の居住形態がどのようになっているのか、さらに離婚がどのように語られているのかを『大和物語』から究明する。

『大和物語』は歌物語で全173段の中、95段から多様な男女関係が見られた。この多様な実態を明らかにしていきたい。

男女関係で女性に対する呼称に着目すると「北の方」「妻」「妻ども」「女」などが認められる。ここには女性の身分の違いが反映されている。

居住形態では、妻方居住や夫方居住、独立居住等の形態があり、夫婦関係によって違いがある。

また、当時の離婚は曖昧であるとされてきたが、離婚用語を確認していくことで、平安時代の離婚状況が明らかになる。

『大和物語』を検討することによって、平安貴族における男女の関係性が实际的に把握できるのである。その多様な実態から平安時代の婚姻・離婚制度の一端を明らかにしていきたい。

2. 方法

『新編日本古典文学全集』の『大和物語』から婚姻用語、女性への呼称、居住形態を示す用語を抽出し、整理して、婚姻制度を考察する。

また、同じく離婚用語を抽出し、整理して、離婚の実態を考察する。

なお、これらの用語は、本文の系統によって異同が見られる。主に使用している『新編日本古典文学全集』の底本は、厳島神社宮司野坂元定氏所蔵天

福本である。他の系統本として、『日本古典文学大系』（尊経閣旧蔵伝藤原為家氏本）と『群書類従』を参照した。

3. 結果と考察

(1) 婚姻用語

※ () の数字は女性側で用いられていた用語

婚姻用語・例(女側)			
住む	23	まうく	2
逢ふ	13(3)	男にす	2(2)
よばふ	12(1)	婿取る	1(1)
通ふ	8	寝る	1
得る	6	契る	1
おはします	5	つく	1
すゑ	3	語らふ	1

表1. 婚姻用語

婚姻用語では、14種類の用例が見られた。この多様性は一夫多妻制で男が女のもとに通う「通い婚」という制度によっている。したがって、「住む」というのは男が女の家で「住む」ということであり、女側からすると「男にす」「婿取る」となる。また、「よばふ」「通ふ」「おはします」等は男が女の家に出かけることからする用語となる。「逢ふ」「寝る」「契る」「語らふ」は実際に男女が逢うことからする用語となる。さらに、男を主体とした「得る」「すゑ」「まうく」「つく」用語も見られた。

多くの婚姻用語は男が主体であると言える。そうした中で、わずかだが表の括弧で示したように女性を主体として用いられる用語もあった。

(2) 女性への呼称

女性への呼称では、「女」呼称(26例)、「妻」呼称(10例)、「妻ども」呼称(2例)、「北の方」呼称(4例)が見られた。

多くの「女」呼称は、愛人関係で使用されているといえる。しかし、夫婦関係の使用もあり、これは各章段の人間関係に応じた用例と見なすことができる。また、実名が呼称されない場合に使用されている。

「妻」呼称では、文字通り夫婦関係の用例である。「妻ども」呼称は、一夫多妻制を背景とした用法となる。「妻ども」とされる場合、「もとの妻」「今の妻」という形で差別化されるだけで、本妻という意識があったのかどうかは微妙である。

「北の方」呼称が見られる場合は、男性の身分がほぼ大臣クラスの場合に限られるようである。124段では、左大臣藤原時平の「北の方」で148段では、明確ではないが大臣クラスの男性であると考えられる。「北の方」呼称は、身分制度によった用語となる。

(3) 居住形態

居住形態が、明確にわかるのは妻方居住の10例、夫方居住は2例のみであった。

2例の夫方居住の場合、女の身分が低く、後見者もない場合が1例、もう1例は下級役人が大納言の娘を盗みだした場合となる。後世のような夫方居住ではなく、特殊な事例でしかないと言えよう。

そうじて、居住形態は、妻方居住が主流であり、「すゑ」が使用される場合でも男が妻の家に新たな女を「すゑ」る形となっている。

(4) 離婚用語

離婚用語・例(女側)			
逢はず	7(1)	すまづ	2
絶ゆ	6(1)	送る	1
おはしまさず	6	やみにしかば	1
来ず	6(3)	寄せず	1
離る	5	見えず	1(1)
とふ	3	追い出す	1(1)
捨つ	2(1)		

表 2. 離婚用語

離婚用語は、13種類の用例が見られた。多くが男を主体として、「すまづ」「逢はず」「おはしまさず」「とふ」「絶ゆ」「離る」「やみにしかば」等の男が

女のもとに住まない、行かないといった行動からの用語となる。女側からすると、男が女の家に来ず」「見えず」となる。他にも、相手が嫌になるという心情を示す「やみにしかば」や男が女を元の場所に送り返す「送る」、女の両親が男を寄せない「寄せず」等の場所から離れさせる用語も見られた。

また、女性を主体として用いられる用語が8例見られ、女が男を捨てる「捨つ」場合や本妻が新たにきた妻をいじめて「追い出す」場合といったことから女から男への拒否が見える。

さらに、離婚用語の他に離婚状況が見られるものとして、男性が妻の家から荷物を全て運び出すことという行動や女が下品な行動を離婚理由にしているといったものが見られた。

4. まとめ

(1) 婚姻用語では、多くが男を主体とするもので一夫多妻制を多様な用語で表していることが窺える。

(2) 女性への呼称では、身分制度や用法によって違いがあることが見受けられる。

(3) 居住形態では、妻方居住多く、男が女の所に住む又は他の女性を置く場合から妻方居住が見られた。夫方居住が2例のみでしか見られなかったが、どちらも立場的に男の方が女よりも高い状況であると窺える。

(4) 離婚用語では、婚姻用語と同様に男が主体の用語が多いが、女側から用いられているものもいくつか見受けられたことで女側も拒否ができることが窺える。

『大和物語』では、結婚から離婚までの背景を様々な身分を持つ登場人物たちによって描かれており、平安時代前期における婚姻関係と居住形態について確認すべき作品であると考えられる。

主要参考文献

- [1] 高橋正治校注・訳『大和物語』(『新編日本古典文学全集』, 小学館, 一九九四)
- [2] 倉田実『王朝の恋と別れ 言葉と物の情愛表現』(森話社, 二〇一四)
- [3] 胡潔『平安貴族の婚姻慣習と源氏物語』(風間書房, 二〇〇一)

後置修飾構造の定着度と教科書における配列

The Retention Rate of Post-modification Structures and its Arrangement in school Textbooks

山田 真衣

Mai Yamada

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 英語文学・英語教育専修

キーワード：後置修飾，難易指標，教科書配列

Key words : Post-modification Structures, Difficulty Index, Arrangement in School Textbooks

1. 研究背景

金谷(2017)によると,中学校 3 年間で学んだ英文法の定着率は低い.高校生を対象に行った和文英訳テストの結果,過去分詞の後置修飾の正答率は全体で 11.2%であり,上位校の高校生ですら 25.0%であった.また,先行研究は,中学生にとって現在分詞と過去分詞の後置修飾は最も難しい英文法項目のひとつであると述べている.

2. 研究目的

まず,高校生を対象に後置修飾の和文英訳テストを実施して後置修飾の定着度を明らかにする.定着度に基づいて後置修飾の難易指標を作成する.次に,中学校英語教科書における後置修飾の登場順序と難易指標を照合することによって,教科書における後置修飾の配列は生徒の定着状況を配慮しているかを検討する.

3. 調査方法

現在分詞と過去分詞の後置修飾を SPR, SPA, OPR, OPA+A, OPA-A の 5 種類に分類した(表 1). SPR は現在分詞が主節内主語を修飾する場合,SPA は過去分詞が主節内主語を修飾する場合,OPR は現在分詞が主節内目的語を修飾する場合,OPA+A は過去分詞が主節内目的語を修飾し動作主がある場合,OPA-A は過去分詞が主節内目的語を修飾し動作主がない場合を指す.この分類を元に和文英訳テストを作成し,高校 1 年生 91 名を対象に実施した.テストの結果を分析し,5 種類の難易指標を明らかにし,平成元年度に改訂された学習指導要領に沿って作成された 6 社の中学校英語教科書(以下,元年教科書)と平成 20 年度に改訂された

学習指導要領に沿って作成された 6 社の中学校英語教科書(以下,20 年教科書)の後置修飾の登場順番と出現回数を調査して,生徒の定着状況に配慮した配列になっているかを検討した.

また,後置修飾を理解させるためには,後置修飾の使用に必然性のある文が教科書に設定されていることが大切だ. Loschky&Bley-Vromau(1993)は,task-essentialness とは,目標とする文構造の使用が必然となるタスクだと述べている.よって,教科書は豊かな文脈で構成し,task-essentialness を持つことが望ましい.

表 1. 現在分詞と過去分詞の 5 種類のタイプ

タイプ	例 文
SPR (Subject Present Participle)	The nurse <i>kissing the doctor</i> treats the patient.
SPA (Subject Past Participle)	The nurse <i>kissed by the doctor</i> treats the patient.
OPR (Object Present Participle)	The doctor treats the patient <i>kissing the nurse</i> .
OPA+A (Object Past Participle with Agent)	The doctor treats the patient <i>kissed by the nurse</i> .
OPA-A (Object Past Participle without Agent)	The cat sees the monkey <i>painted in the picture</i> .

Izumi (2003) を基に一部改編

表 2 和文英訳テスト

SPR	その馬をハグしているそのライオンはその牛を蹴る。 (The lion hugging the horse kicks the cow.)
-----	---

SPA	その馬によってハグされるそのライオンはその牛を蹴る. (The lion hugged by the horse kicks the cow.)
OPR	その牛はそのライオンをハグしているその馬を蹴る. (The cow kicks the horse hugging the lion.)
OPA+A	その牛はそのライオンによってハグされるその馬を蹴る. (The cow kicks the horse hugged by the lion.)
OPA-A	その牛はその絵に描かれたその馬を見る. (The cow sees the horse painted in the picture.)

4. 結果と考察

5 種類の後置修飾の難易指標は, $\left[\begin{smallmatrix} \text{OPA-A} \\ \text{OPR} \end{smallmatrix} \right] > \left[\begin{smallmatrix} \text{OPA+A} \\ \text{SPR>SPA} \end{smallmatrix} \right]$ である. したがって, OPA-A と OPR の難易は等しく, OPA-A と OPR は, OPA+A SPR>SPA より前に配列するべきであると考えられる. また, SPR は SPA より前に配列するべきであるが, SPR が登場しない場合は, OPA+A と SPA の難易は等しいため, 配列順序は問わない.

先行研究において和文英訳テストで最も正答平均点が低かったのは SPA であったが, 本研究でも難易度が最も高いのは SPA という結果であった. さらに, 誤答分析の結果からも SPA は生徒にとって定着するのが最も難しい後置修飾であることがわかった. その原因の一つは, 元年教科書, そして 20 年教科書の中で, SPA が登場する教科書はないからだ. 生徒にとっては教科書を通して SPA を学習する機会が与えられていないことになる.

教科書と 5 種類の後置修飾の難易指標との照合結果は, 元年教科書では, 6 社中 1 社 (EVERYDAY ENGLISH) が一致しなかった. 20 年教科書では, 6 社中 2 社 (ONE WORLD, TOTAL ENGLISH) が一致しなかった.

後置修飾の配列の視点から判断すると, 元年教科書と 20 年教科書の多くは, 5 種類の後置修飾の難易指標とは一致していた. しかし, それは教科書に登場している後置修飾の種類が少ないためであることがわかった. したがって, 難易指標に基づき, また考慮しながら教科書作成を行っているとは言えない.

文脈を構成する文の数を元年教科書と 20 年教科書で比べると, 20 年教科書では 1 冊あたり平均

で 8.00 文も減少している. このことから task essentialness の観点からは, 20 年教科書は, 後置修飾の機能を生徒が理解しやすい文脈が構成されにくいことが明らかになった.

5. 結論

本研究を通して明らかになったのは, 以下の 2 点である.

- 1) 5 種類の後置修飾の難易指標は, $\left[\begin{smallmatrix} \text{OPA-A} \\ \text{OPR} \end{smallmatrix} \right] > \left[\begin{smallmatrix} \text{OPA+A} \\ \text{SPR>SPA} \end{smallmatrix} \right]$ である.
- 2) 後置修飾の配列の視点から判断すると, 元年教科書と 20 年教科書の多くは, 5 種類の後置修飾の難易種類と一致してはいるが, それは教科書に登場している後置修飾の種類が少ないためである. したがって, 難易指標に基づき, また考慮しながら教科書が作成されているとは言えない.

6. 今後の課題

- 1) 現在分詞の後置修飾には現在進行形の習得, 過去分詞の後置修飾には受動態の習得がそれぞれ前提となる. 本研究の結果から後置習得の定着率が低いことが明らかになった. 前提となる現在進行形と受動態の定着状況を確認する必要がある.
- 2) 諸外国の生徒の後置修飾の難易指標を調べ, 諸外国の教科書の配列を分析する.

主要参考文献

- [1] Izumi, S. (2003). Processing difficulty in comprehension and production of relative clauses by learners of English as a second language. *Language Learning*, 53, 285-323
- [2] Loschky & Bley-Vroman, R. (1993). Grammar and task-based methodology. In G. Crookes and S. Gass (Eds.), *Tasks and language learning: Integrating theory and practice* (pp. 123-67). Clevedon, Avon: Multilingual Matters.
- [3] 金谷憲. (2017). 『高校生は中学英語を使いこせるのか? - 基礎定着調査で見えた高校生の英語力 -』. アルク

コンパッション・フォーカスト・セラピーの効果に関する研究

—他の介入技法との比較において—

The effects of Compassion Focused Therapy
—In comparison with other intervention techniques—

江部 優奈

Yuna Ebe

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻

キーワード：セルフ・コンパッション，カウンセリング実験，効果比較

Key words：Self-Compassion, Counseling experiment, Comparative effect

1. 目的

人々が精神的問題を含む様々な困難にどのように向き合うのかという課題に関して，近年仏教思想を取り入れた「コンパッション」が注目されている．特にコンパッションの1種であるセルフ・コンパッション（Self-Compassion：以下 SC）は，自分が不十分だと感じる状況において，自己に向けられるケアや思いやりと定義され（Neff, 2003），社会的側面の向上，恥感情，不安，抑うつ，自己批判の低減など心理的資源として機能することが報告されている（Gilbert, 2009）．SC を高める心理療法には，Gilbert の開発したコンパッション・フォーカスト・セラピー（以下 CFT）がある．CFT は，従来の認知行動療法（以下 CBT）が，恥感情や自己批判の強いクライアントに適応しづらいという指摘（Gilbert, 2000）に基づいて開発され，他の技法と競合することなく，これまでの治療スタイルに深みと広がりをもたらすというセラピスト側への恩恵も述べられている（Gilbert, 2011）．しかしながら，SC 及び CFT に関する本邦での研究は少なく，検討が不十分である（浅野, 2018）．したがって，臨床場面での汎用性を高めるために，CFT の効果や他の技法と併用した際の効果の検討が必要だと考える．

本研究では，CFT, CBT の他に介入技法が SC に与える影響を検討した藤田・福島（2019）で用いられた感情体験を深める介入（以下 AEDP）を加え，3 つの介入技法とその順序がどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的とした．

2. 方法

介入条件の群分けを行い（図 1），1 回 50 分のカウンセリングを臨床心理士および公認心理師である女性カウンセラーに依頼し，初回のインテーク面接，1 条件 3 回ずつ計 10 回実施した．毎回のカウンセリング後に質問紙（表 1），1 条件が終了するごとにインタビューを行った．

実験参加者 各群 7 名，計 21 名．内訳は，I 群：平均年齢 28.4（SD：10.9）歳，男性 1 名；女性 6 名，II 群：平均年齢 27.9（SD：11.1）歳，男性 1 名；女性 6 名，III 群：平均年齢 28.9（SD：7.20）歳，男性 2 名；女性 5 名）であった．

表 1 質問紙の構成

1. 表紙
2. 完全主義尺度（桜井・大谷, 1997）【設問1】
3. 対人関係問題質問票：IIP（Horowitz, Alden, Wiggins, & Pincus (2000) より岩壁が翻訳）【設問2】
4. 日本語版セルフ・コンパッション尺度（石村, 2014）【設問3】
5. 自尊感情尺度（山本・松井・山成, 1982）【設問4】
6. “思い出し羞恥”尺度（高坂, 2017）【設問5】
7. 心理症状尺度：SPACE（Jeremy E Halstead (1990/2000) より岩壁が翻訳）【設問6】
8. 作業同盟尺度：WAI（A.O.Horvath, 1981・1984）【設問7】
9. 面接後クライアント・フィードバック尺度（岩壁, 2019）【設問8】
10. フェイスシート

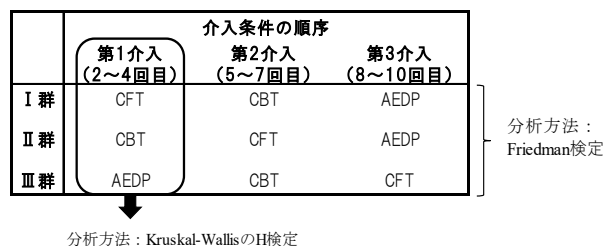
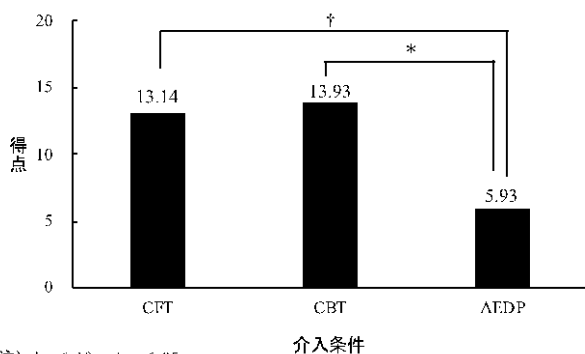


図 1 群ごとの実験手続き

3. 結果と考察

はじめに、介入条件が各尺度に与える影響を検討するため、Kruskal-Wallis の H 検定による群間比較を行い、有意差が認められたものは、Dann-Bonferroni の方法による多重比較を行った。その結果、日本語版セルフ・コンパッション尺度の下位尺度「共通の人間性」は、AEDP 群よりも CBT 群の得点が有意に高い傾向、「マインドフルネス」は AEDP 群よりも CFT 群の得点が有意に高い傾向、CBT 群の得点が有意に高いことが示された。また KJ 法による分析の結果、CBT では認知の変容が促され、否定的な思考へのコーピングを行うことで、問題に付随する感情にとらわれにくくなり、第三者の視点で問題を振り返られたことが効果に繋がったと推測された。一方「自己への思いやり」が馴染みのない概念と捉えられた CFT は、効果が反映されにくかったと考えられる。



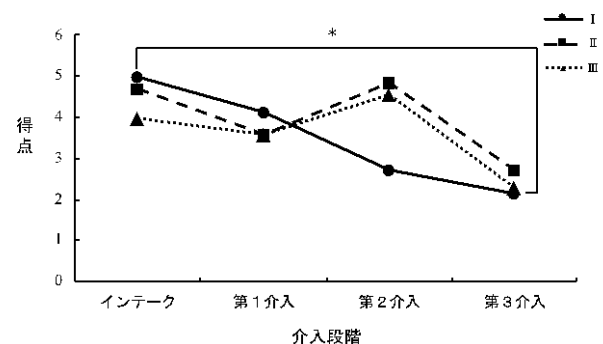
注) † $p < .10$, * $p < .05$

図2 介入条件ごとの「マインドフルネス」得点

次に、各群における介入条件の影響を検討するため、Friedman 検定による群内比較を行い、有意差が認められたものは、Dann-Bonferroni の方法による多重比較を行った。各群の結果を以下に示す。
I群：思い出し羞恥尺度の下位尺度「評価懸念恥」「行動的恥」、心理症状尺度の下位尺度「全般性不安」「全般性抑うつ」が、インテークよりも第3介入の AEDP 後に低下した。初回に CFT を行うことで、心理教育によって恥感情や抑うつの気分への対処法が得られ、日常生活での実践に繋がったこと、自己の問題と向き合う準備が整い、AEDP で過去の傷つき体験に触れられることが示された。
II群：日本語版セルフ・コンパッション尺度の下位尺度「自分への優しさ」が、インテークよりも第3介入の AEDP 後で上昇する傾向にあった。初回に CBT を行うことで認知の変容が促され、CFT の自己への思いやりを感じやすくなり、さらに

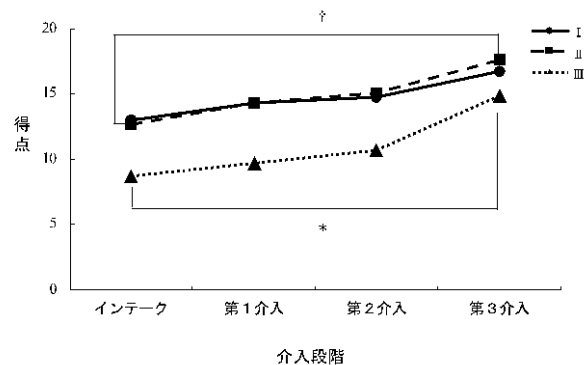
AEDP で感情体験を深めることが、カタルシス効果をもたらすことが明らかとなった。徐々に感情体験を深めた介入順序が、クライアントにポジティブな印象を与えていた。

III群：インテークよりも第3介入の CFT 後で、対人関係問題評定票の下位尺度「冷淡でよそよそしい」思い出し羞恥尺度「思い出し羞恥」が低下し、日本語版セルフ・コンパッション尺度の下位尺度「自分への優しさ」は上昇していた。初回に感情体験を深める AEDP を行うことで、ラポール形成が強固なものとなり、第3介入の CFT における自己に思いやりを向けるワークに取り組みやすくなったことが明らかとなった。



注) * $p < .05$

図3 介入段階における群ごとの「全般性不安」得点の変化



注) † $p < .10$, * $p < .05$

図4 介入段階における群ごとの「自分への優しさ」得点の変化

以上から、恥・抑うつ・不安に関しては CFT による初期介入が効果的であり、「自分への優しさ」に関しては、AEDP・CBT による初期介入と CFT による後続介入が効果的であることが推測された。

主要参考文献

- [1] 浅野憲一・伊里綾子・Chris Inons・Paul Gilbert (2018). コンパッション・フォーカスト・セラピーの理論と実践 認知療法研究, 11, 2, 176-185.

障害児を育てる親の語りと性別役割分業

—新型出生前診断の広がる社会のゆくえを考える—

Gender roles and the experience of parents who have children with disabilities

—Considering the future of society with noninvasive prenatal testing—

栗田 みどり

Midori Kurita

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 現代社会研究専攻 臨床社会学専修

キーワード：ジェンダー，性別役割分業，障害者家族，新型出生前診断

Key words : Gender, Gender roll, Disabled family, Noninvasive prenatal

1. 目的

本研究は、障害児を育てる親の語りを通して、障害をもつ子どもを育てることが現代社会においてどのような経験なのかを明らかにすることを目的としている。障害者家族においてケア役割はどのように担われているのか、性別役割分業はどのような形で現れているのかを、家庭内だけでなく就学をめぐる学校環境の中で親に期待されるケア役割についても明らかにしていく。障害児を育てる際の、性別に基づくケア役割の偏在について障害をもつ子どもの出産を忌避させる傾向と結びつけて考察を行う。

2. 方法

本研究で採用する研究方法是量的調査の二次分析と質的調査である。量的調査の二次分析をおこなうために、東京大学・社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター（以下、SSJDA）の「生命倫理に関する意識調査，2014」（NHK放送文化研究所世論調査部）のデータ利用申請を行い、同意意識調査結果がまとめられたSPSSデータを受領した。この個票データをもとに性別や年齢、学歴、家族構成が選択的中絶の容認とどのように関連するのかについて、二次分析をおこなった。

この分析結果を踏まえ、障害児の親3名、障害児を担当したことのある元小学校教員2名を対象にインタビュー調査を実施した。障害児の親には子どもの誕生から学齢期までを中心に生活面および制度面で経験した困難や葛藤、およびこれらを乗

り越えるための工夫に関し、インタビュー調査を実施した。元教員を対象に障害児をめぐる学校環境についてインタビュー調査を実施した。インタビュー調査結果はすべて、対象者の許可を得て録音し、文字起こしした上で分析を行った。分析方法は、障害児の親の語りはM-GTA法を用いた。また小学校の元教員はKJ法を参考にして分析を行った。

インタビュー調査結果から3つの点に着目することにした。第一に障害児の親にとって、子どもの障害がわかったときと親族間の葛藤の問題、第二に幼稚園または保育園の選択という問題と療育、第三に就学時の学校の選択と就学以降の学校から期待される役割である。これら3点を中心に、障害児と家族を取り巻く環境について明らかにする。

小学校の元教員へのインタビュー調査においては支援学校や普通学校の支援学級ではなく、普通学級で障害児を教育してきた経験をもとに、学校環境の中で障害児の介助が誰によって担われているのか、について語って頂いた。障害児をめぐる親の語りや元教員の語りから学校環境における障害児とケア役割を記述していく。

これらのインタビュー調査とは別に障害者団体主催の2泊3日のサマーキャンプにボランティアとして参加した。この活動は障害児・者の生活やケアについて理解する上での参与観察と位置づけ、そこでの経験をフィールドノートとしてまとめ、インタビュー調査の分析の際に用いることとした。

3. 結果と考察

「生命倫理に関する意識調査, 2014」の二次分析の結果から以下のことがわかった。「選択的中絶」は約6割の人々が肯定しており, これらをさらに男女別に分析した結果, 男性は学歴が高い方が, 女性は家庭年収が高い方が, また子どもがいる人の方が肯定する傾向にあった。

この分析結果からは, 子育てのケア役割の多くを担う女性が, 子どものケアの大変さを理解しているからこそ, より多くのケアを必要とする障害や病気を持って生まれてくる子どもに対して否定的に考えているということが想定される。

これらを実証するために, 障害者家族においてケア役割はどのように担われているのか, 性別役割分業はどのような形で現れているのかを明らかにするためにインタビュー調査を行った。

本研究におけるインタビュー調査からは以下のことがわかった。障害児の親3名はいずれも, 子どもを幼稚園や保育園に入園させるために複数の園に申込んで, いずれも断られていた。その理由として障害児はケアをより多く必要とするために, スタッフを「加配」しなければならないからだということだった。また療育施設としての障害児向けの幼稚園もあるが, 預ける時間が短いことや親の付き添いを求められることもわかった。

学齢期においては, 障害児が普通学校を選択した場合, 学校から介助員採用の要望を出して予算をつけることができるが, 区や市に登録されている介助員が足りないという問題がある。介助員が確保できない場合は, 子どもの介助は学校から親に要求される。そのため親が介助員を個人的に見つけるケースもあるが, 介助員を継続的に雇用するのは難しい。介助員の確保が不安定な状況で, 障害児の親は学校での子どもの介助のために拘束されることになり, 仕事と両立することが難しい。

小学校の元教員の語りからは, 教員同士で協力することで保護者の「付き添い」を依頼することをしない取り組みも聞くことができた。こうした取り組みを障害児の親から聞くことはなかった。親の「付き添い」役割は, 担任の教員の裁量によって決められるため, 教員の認識や考え方によっても, 親に求める介助の時間は大きく異なる。

サマーキャンプにおいては, キャンプ参加者に対し, 現地に遊びに来ていた他の人々がとる態度を通して, 明確な言動ではないが排除する視線や

態度を示すことが観察された。障害者を取り巻く社会環境をサマーキャンプという窓を通して知ることができた。

このように障害児のケアはより多くの時間や労力が必要になる。ケアを委託するための介助員を雇うための費用の捻出や, 経済的に自立することが難しい場合, 大人になっても親が扶養することもあり, このように経済的に大きな負担がかかる。したがって母親はケアを担い, 父親は経済的に支援することが求められるために性別役割の規範が強く表れることが示された。このように家族のケアを前提とした教育や支援のあり方は障害者家族にとって生きやすい社会とは言えないだろう。それによって障害のあることを人々に忌避させることになっているのかもしれない。

4. まとめと今後の課題

しかし障害児の親の視点からは, 障害者に対する価値観の変化がみられた。人の評価を能力によって決めるのではなく, 個人として受け入れるという視点である。能力主義とは異なるこのような価値観は小学校の元教員にも共通していた。能力にかかわらず個人として受け止められる環境は, 障害者だけでなく, 健常者にとっても生きやすい社会になることが本研究を通して示唆された。

主要参考文献

- [1] 土屋葉 2002『障害者家族を生きる』勁草書房
- [2] 要田洋江 1999『障害者差別の社会学』岩波書店
- [3] 中根成寿 2006『知的障害者家族の臨床社会—社会と家族でケアを分有するために—』明石書店
- [4] 江原由美子編, 1996『生殖技術とジェンダー—フェミニズムの主張3—』勁草書房
- [5] 米本昌平・松原洋子・櫛島次郎・市野川容孝, 2000『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか—』講談社現代新書
- [6] 玉井真理子・渡辺麻衣子 2014『出生前診断とわたしたち—「新型出生前診断」(NIPT)が問いかけるもの』生活書院

女子大生における友人関係のとり方、ソーシャルスキルと 居場所感の関連について

The relationship between friendship, social skills and sense of “ibasyo” in female college students

須藤 優希

Yuki Suto

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻

キーワード：友人関係、ソーシャルスキル、居場所感、女子大生

Key words : Friendship, Social skills, Sense of “ibasyo”, Female college students

1. 問題

1980年代、不登校が増加したことで、文科省は不登校に対する取り組みを本格化させた。同時に、不登校対策の一環として「居場所」という概念が注目されるようになった(石本, 2009)。則定(2008)は「居場所」の中でも心理的な側面に注目し、「心理的居場所」という言葉を提示し、心理的居場所を「こころの拠り所となる関係性、および、安心感があり、ありのままの自分が受容される場」と定義し、心理的居場所があることに伴う感情を「心理的居場所感」とした(田島ら, 2015から引用)。

「心理的居場所感」は、「ありのままの自分でいられる」などの「本来感」、「役に立っている」などの「役割感」、「無条件に愛されている」などの「被受容感」、「ホッとする」などの「安心感」の4つから構成されているとした(則定, 2007)。居場所は研究によって個人の場所も居場所とする場合、対人関係を居場所とする場合があるが、大学生は「心の居場所」として挙げるのは、「場所」よりも「対人関係」であり、対人関係の中でも「友人」が多いこと(小畑・伊藤, 2001)、友人への居場所感は大學生におけるアパシーを軽減させたり(石本・倉澤, 2009)、自己肯定意識(石本, 2010)と正の相関がみられることを明らかにしている。このことから、大学生は友人といふところを居場所と感じ、大学生の友人における居場所感は、心理的適応と関連が見られることがわかる。石本・西中(2014)は、居場所がないという感覚である「居場所欠乏感」と友人関係のとり方の関連を調査すると、友人への同調性が低く心理的距離も遠

い友人関係は居場所欠乏感が高く、同調性が高く心理的距離も近い友人関係をとる人、同調性は低い心理的距離が近い友人関係をとる人は居場所欠乏感が低いことが明らかとなった。「居場所がある感覚」である居場所感もまた友人関係のとり方と関連が見られることが考えられる。そこで今回は、大学生の対人関係、特に友人関係に焦点を当てて研究を行う。

友人関係と居場所感の関連について調査した研究に永井(2018)がある。永井(2018)は友人関係において傷つきを避ける傾向とソーシャルスキル(対人場面において適切かつ効果的に反応するために用いられる言語的・非言語的な対人行動と、そのような対人行動の発現を可能にする認知過程との両方を包含する概念(相川, 1996; 相川・藤田, 2005より引用)でクラスタ分析を行い、5つのクラスタに分けた。そしてそれぞれの群で居場所感との関連を見た結果、「スキル成熟傷つき回避群」と「スキル成熟親密関係群」が居場所感が高かった。このことから、ソーシャルスキルも居場所感と関連がみられることが明らかとなった。永井(2018)では居場所感の形成を、傷つけあい回避という力動的要因とソーシャルスキルという関係形成のプロセスから説明しようとしていると言えよう。しかし、永井(2018)では、居場所感のどの側面が高いのかについて明らかにされていない。居場所感にはいくつかの側面があり、「居場所感が低い」と感じている人でもどの側面が低いか異なっていることが推測される。対人関係を築く上でソーシャルスキルは高いことが良いとされ

るがその一方で、自分を抑え過ぎることによって安心感や本来感を低下させるのではないだろうか。そこで本研究では、居場所感の下位側面に焦点を当て、友人関係のとり方とソーシャルスキルとの関連を調べることを目的とする。

2. 方法

調査期間：10月1日～12月6日

調査対象者：A大学の女子大学生、大学院生149名（平均年齢：20.86±0.89歳）

調査方法：質問紙法で行った。質問紙構成は次の通りである。①表紙、②心理的居場所感尺度（則定，2007）③傷つけ合い回避尺度（岡田，2012）④成人用ソーシャルスキル自己評定尺度（相川・藤田，2005）⑤フェイスシート（年齢，学年）

3. 結果と考察

3-1 傷つけ合うことを避ける友人関係、ソーシャルスキルと居場所感の重回帰分析結果

傷つけ合うことをさける友人関係とソーシャルスキルを独立変数、居場所感の下位尺度を従属変数とした重回帰分析を行った。結果を図1、2に記す。居場所感の「安心感・本来感」は傷つけ合うことをさける友人関係が負の影響を、ソーシャルスキルが正の影響を与えていた。対して、「役割感・本来感」はソーシャルスキルのみ正の影響を与えていた。

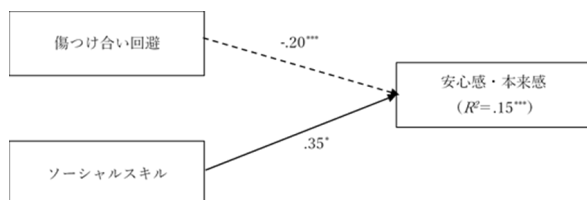


図1 友人関係、ソーシャルスキルと居場所感の安心感・本来感の重回帰分析結果

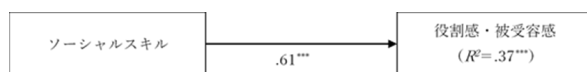


図2 友人関係、ソーシャルスキルと居場所感の役割感・被受容感の重回帰分析結果

注) *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$ 実線は正の影響、点線は負の影響を示す

3-2 友人関係・ソーシャルスキルクラスと居場所感の分散分析結果

友人関係とソーシャルスキルの3クラスを独立変数、居場所感を従属変数とした1要因分散分析を行った。その結果、ソーシャルスキルが高く、

他者に配慮し親密な関係を築く「スキル成熟他者配慮親密関係群」の居場所感が高くなることが明らかとなった。結果を表1に示す。

表1 分散分析結果

	クラス1 スキル成熟 傷つけ合い回避群			クラス2 スキル成熟 他者配慮親密関係群			クラス3 スキル標準 傷つけ無関心群			
	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	多重比較
安心感・本来感	65	3.91	0.77	36	4.58	0.36	42	3.92	0.83	2>3.1
役割感・被受容感	65	3.48	0.76	36	4.03	0.81	43	3.31	0.96	2>1.3

4. 考察と今後の課題

本研究によって、ソーシャルスキルが高いことで居場所感の安心感や本来感、役割感・被受容感が高まることが明らかとなった。加えて安心感・本来感、親密な友人関係を築くことで高まることも明らかとなった。また、ソーシャルスキルが高く、友人に対して配慮しつつも傷つけられることを恐れず親密な関係を築く人は、居場所感の全ての側面が高いことが明らかとなった。対して、ソーシャルスキルが高く自他ともに傷つけられることを回避しようとする人、ソーシャルスキルが平均的で傷つけられることを回避しようとする人は友人に対しての居場所感が同等であることが明らかとなった。この点から、ソーシャルスキルが高い群同士では表面的でなく親密な友人関係を築くことによって友人への居場所感を高めることが明らかとなった。ただし本研究では、クラス間のソーシャルスキルが有意傾向であることを考慮する必要がある。本研究の結果から、ソーシャルスキルが高いだけでは居場所感が高まらず、親密な友人関係が居場所感を高めるうえで必要となることが示唆された。居場所づくりを行う上で、居場所感をより高めるには、表面的に対応する友人関係に焦点を当てて、介入することが必要であることが推測された。傷つけ合い回避群、傷つけ無関心群については、個人であれ集団であれ心理療法的な接近が必要になると思われる。

主要参考文献

[1] 永井暁行 (2018) .ソーシャルスキルと態度による大学生の友人との付き合い方の分類—友人関係による居場所感の違い— 教育心理学研究, 66, 54-66.

首尾一貫感覚と月経随伴症状との関連性の検討

—月経困難症の予防を目指して—

Examination of the relationship between Sense of Coherence and menstruation-related symptoms
—Toward Realization of the prevention of dysmenorrhea—

樋田 琴乃

Kotono Toyuda

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻

キーワード：月経随伴症状，首尾一貫感覚，予防

Key words : Menstruation-related symptoms, Sense of Coherence, Prevention

1. 問題

月経とは、「周期的に繰り返され、かつ限られた日数で自然に終わる子宮からの出血」と定義され（松本，2004），女性の健康のバロメーターとなるなど，重要な役割を果たす一方，月経に伴う下腹部痛や情緒不安定感などの随伴症状があり（日本産婦人科学会・日本産婦人科医会，2011），こうした月経随伴症状は身体的精神的ストレスとなり，抑うつなどの精神的健康に影響を及ぼすことが報告されている（服部ら，1998）。

月経随伴症状は，日常生活に支障をきたし，身体的・精神的健康が脅かされる場合，月経困難症と判断される（小児思春期婦人科学，1992）。月経困難症は，器質的疾患に起因する「器質性月経困難症」，器質的原因が認められない「機能性月経困難症」に分けられる。このうち25歳未満の若年層の女性においては，およそ95%が「機能性月経困難症」であることが指摘されている（小児思春期婦人科学，1992）。「機能性月経困難症」は，子宮内膜で産生されるプロスタグランジン（PG）によって，疼痛や嘔吐等が生じるとされるほか，若年層の女性においては，月経に対する不安感，緊張感などの心理的要因が大きな比重を占めることが明らかとなっている（松本，2004）。

月経随伴症状に対する主な治療法として，PG合成を阻害する非ステロイド性抗炎症剤（NSAIDs）や経口避妊薬（ピル）などの薬物療法が幅広く使われているが（相良，2009），薬物療法の副作用に不安を抱く人が多いということも報告されている

（服部ら，2001）。以上から，月経随伴症状の支援・対処として，薬物療法と併せた心理的介入が必要であると考えられる。

こうした中，先行研究では，月経に対する認知やイメージが月経随伴症状に影響を及ぼす可能性が指摘されている（小澤ら，2006）。また，月経に対する知識を十分に理解することや，月経に対するコントロール感を高めることが月経随伴症状に対する認知に変容をもたらすという報告もある（福山，2016）。

このような認知やストレスを評価する際に关わる能力のひとつに，首尾一貫感覚 Sense of Coherence (SOC) がある (Antonovsky, 1987)。SOC は，把握可能感（状況の認知的理解）・処理可能感（内外の資源を使い有効に対処できる確信）・有意味感（解決することに意味があるという動機づけ）の3つから構成される概念で，先行研究では SOC が高い者は，高いストレス対処能力と健康保持力を持つとされており，SOC 向上が月経に対する認知の変容やセルフケアへの動機づけに奏功し，月経随伴症状を軽減させる可能性が推測される。しかし，SOC は一般性の高い概念であることから，月経随伴症状に関する SOC を取り上げた研究を行う必要があると考えられる。

以上から，本研究では，女子学生の月経随伴症状に対する SOC 尺度を開発し，信頼性・妥当性を検討することを目的とする（研究I）。また，研究Iの結果に基づき，月経随伴症状に対する SOC とセルフケアおよび月経随伴症状との関連を明らかに

することを目的とする（研究II）。

新たな月経随伴症状に対するSOC尺度を開発することは、月経随伴症状に関するSOCを測定可能にし、他の心理的要因との関連を検討できる点で臨床的意義があるといえる。また、月経随伴症状の心理的メカニズムを解明することは、予防的観点からも重要な知見が示されることが期待できる。

2. 方法

研究I

調査期間：2019年9月20日～2019年10月25日

対象者：成人の女子学生161名（20.72±0.84歳）、有効回答数147票（93.37%）

調査方法：自記式無記名質問紙調査

調査項目：属性、月経歴に関する項目、以下の尺度で構成された。

- 1) 日本版SOC短縮版尺度（山崎，1999）
- 2) 月経随伴症状日本語版（MDQ）（秋山ら，1979）
- 3) 月経随伴症状に対するSOCを測定する項目

研究II

調査期間：2019年11月1日～2019年11月20日

対象者：成人の女子学生122名（21.12±1.10歳）、有効回答数113票（93.38%）

調査方法：自記式無記名質問紙調査

調査項目：属性、月経歴に関する項目、以下の尺度で構成された。

- 1) 月経SOC尺度
- 2) 月経随伴症状日本語版（MDQ）（秋山ら，1979）
- 3) 月経時の対処行動尺度（諏訪部，2017）

倫理的配慮：本研究は令和元年度大妻女子大学生命科学研究倫理審査委員会の承認を得て実施された（承認番号：2019-020-1）。また、調査対象者に対して、調査に関する説明を十分に行い、同意を得た上で実施された。

3. 結果

月経随伴症状に対するSOCを測定する項目の因子分析結果（研究I）

因子分析（最尤法・プロマックス回転）の結果、「処理可能感」（ $\alpha=.83$ ）「把握可能感」（ $\alpha=.80$ ）「有意味感」（ $\alpha=.65$ ）の3因子12項目が抽出された。これらを月経SOCと命名した。

妥当性の検討（研究I）

日本版SOC短縮版尺度と月経SOCのPearsonの積率相関係数を算出した結果、「処理可能感」間で1%水準の正の相関（ $r=.36$ ）、「有意味感」間で1%水準の正の相関（ $r=.26$ ）が認められた。また、各

尺度の合計間では、1%水準の正の相関（ $r=.39$ ）が認められた。したがって、月経随伴症状に対するSOCを測定する項目の尺度として妥当であると判断された。

月経SOCがセルフケアおよび月経随伴症状に及ぼす影響（研究II）

月経SOCがセルフケアを介して月経随伴症状に及ぼす影響を検討するため、MDQ得点の高・低群別に共分散構造分析による多母集団同時分析を行った。その結果、MDQ高群では、「把握可能感」は「消極的対処行動」へ正の影響を与えていた

（ $\beta=.49$, $p<.05$ ）。更に、「消極的対処行動」は「自律神経失調」へ正の影響を与えていた（ $\beta=.48$, $p<.05$ ）。これらから、「把握可能感」は「消極的対処行動」を介して間接的に「自律神経失調」に正の影響を与えていることが認められた（ $\beta=.24$ ）。

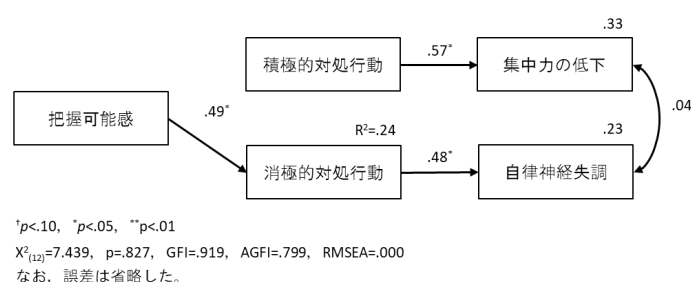


図1. MDQ高群のパス・ダイアグラム

4. 考察

本研究における研究Iの検討により、「処理可能感」「把握可能感」「有意味感」が含まれた3因子12項目7件法の信頼性・妥当性が認められる月経SOC尺度が開発された。

また、研究IIにより、月経随伴症状が重い場合、「把握可能感」がセルフケアを介在し、月経随伴症状に影響を与えるというモデルが示された。このことから、「把握可能感」に介入し、セルフケアの動機づけを高めることにより、月経随伴症状が軽減することが期待できる。今後、「把握可能感」向上およびセルフケアを促す動機づけを目的とした心理教育プログラムの開発が望まれる。

主要参考文献

- [1] 服部律子・任 和子（1998）. 看護学生月経時の不定愁訴と抑うつ度 思春期学 16 (4) 524-530.
- [2] 松本清一（2004）. 月経らくらく講座—もっと上手に付き合い、素敵に生きるために— 光文社

高校生の進路選択における親子間葛藤とその対処方略が 自己肯定感に与える影響

Parent-child conflict in the course selection of high school students and its coping strategies
influence on self-affirmation

桃崎 沙耶

Saya Momosaki

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻

キーワード：進路選択，親子関係

Key words : Course selection, Parent-child relationship

1. 目的

高校卒業後の進路選択は高校生にとって将来に影響する大きな決断であり，親子で共有される問題の1つである．子どもの決断には親の意見も影響を及ぼすことが明らかにされており，少なからず意見の不一致が起きる可能性も示唆される．

進路選択に関する心理学的な研究では，進路決定後の適応や進路選択自己効力についての研究が多い（富永，2008）．両親との話し合いが必要である今日の高校生の進路選択場面において，その葛藤時に両親とどのようなコミュニケーションを取ったのか，その葛藤をどう乗り越えたかは，その後の子どもの自己肯定感に影響を及ぼし，さらにその後の進路選択場面でも影響を及ぼすものと推察される．進路選択は，臨床場面において直接的なテーマとなることは少ないとしても，クライエント自身のこれまでの生き方（意思決定）を振り返る中で重要な視点となるものといえよう．青年期初期の進路選択場面の葛藤，特に学生時代の自立していない時期の親子間の葛藤がどのような影響をもたらすのかについての研究も必要であると考える．

本研究では，日常生活における親子間コミュニケーションと葛藤対処方略が，進路選択場面においてどのように影響を及ぼすのかを明らかにすること，またその進路選択場面における親子間コミュニケーションが子どもの自己肯定感と進路選択自己効力にどのように影響を及ぼしているのかを明らかにすることを目的とした．

2. 方法

調査は，個別自記入式の質問紙調査で，大学構内で筆者からの個別の依頼に応じて回答する個別回収式で行われた．回答依頼時に，文書と口頭で説明し合意を得ており，謝礼は提示していない．回答は全て無記名で行われた．実施時間は，依頼・説明・回答を含めて20分程度であった．

調査実施期間は2019年11月7日（木）～11月20日（水）で，調査対象者は都内の私立大学に通う女子大学生1年生から4年生，女子大学院生の計320名であった．平均年齢は19.71歳（SD:1.26:18歳～24歳）であった．

本調査の質問紙は表1に示すように，設問1から設問6で構成された．

表1. 質問紙の構成

- | |
|---|
| 1 進路選択自己効力尺度（富永，2006）〔設問1〕 |
| 2 親子間葛藤方略尺度（加藤，2003より改訂）〔設問2〕 |
| 3 進路選択における親子間コミュニケーション尺度（高橋，2008;2009）〔設問3〕 |
| 4 直接的コミュニケーション尺度（板倉，2013）〔設問4〕 |
| 5 自己肯定感尺度（樋口・松浦，2002）〔設問5〕 |
| 6 高校時代の進路選択における両親との葛藤の有無と影響を問う質問（自由記述含む）とフェイスシート〔設問6〕 |

3. 結果

全調査対象者320名の内，明らかな虚偽回答を含むと判断されたもの，設問1～5の調査項目に不

備のあったもの、25歳以上の回答者を除いた結果、有効回答票は269票で、有効回答率は84.1%であった。

自己肯定感尺度の下位尺度を合成得点とした際の、それぞれの尺度が自己肯定感及び進路選択自己効力に及ぼす影響を検討するため、Amosを用いて共分散構造分析を行った。モデルは第1水準に日常における親子間の「直接的コミュニケーション」、第2水準に日常における「親子間葛藤方略尺度(4下位尺度)」,第3水準に「進路選択における親子間コミュニケーション尺度(6下位尺度)」,第4水準に「自己肯定感」,第5水準に「進路選択自己効力」を構成し、相関関係が認められた尺度間にのみパスを設定した。有意でないパスを削除、修正し、誤差に対して共分散を設定した。

解析の結果、GFI=.967, AGFI=.928, RMSEA=.042とモデルを支持する適合度が得られた。

まず“自己肯定感”に有意な直接パスが認められた変数は、日常の親子間における“直接的コミュニケーション($\beta=.25, p<.001$)”,親子間葛藤方略の“回避スタイル($\beta=.12, p<.05$)”と“強制スタイル($\beta=.19, p<.001$)”,進路選択時の“議論による立場の明確化($\beta=.18, p<.01$)”と“従順($\beta=.15, p<.01$)”であった。

進路選択における“議論による立場の明確化”は、日常の親子間葛藤対処方略の“問題解決スタイル($\beta=.13, p<.05$)”から有意なパス,“従順”は“自己譲歩スタイル($\beta=.45, p<.001$)”から有意なパスが認められた。日常の親子間葛藤方略の“問題解決スタイル”は日常の“直接的コミュニケーション”から有意なパスが認められた。

最後に、将来の“進路選択自己効力感”は“自己肯定感($\beta=.15, p<.01$)”,進路選択時の“協力($\beta=.14, p<.05$)”と議論による立場の明確化($\beta=.13, p<.05$)”親子間葛藤方略の“問題解決スタイル($\beta=.28, p<.001$)”と“強制スタイル($\beta=.14, p<.05$)”からの有意なパスが認められた。

4. 考察

日常生活における親子のコミュニケーションが密接であるほど、親子で葛藤が生じた際に子どもは問題解決を図ろうとすると示唆された。普段から親子間で話をする事の多い親子は、互いの考えを知る機会も多くなり、従って親子間で葛藤が発生した場合に問題解決を図ることが多くなるのではないかと推察される。このような問題解決ス

タイルが、進路選択場面においても、親子間で議論したり、お互いの立場を考えて進路を決定しようとする態度や行動に影響することが示された。普段から親子で互いについて知っているからこそ、子どもの進路選択時に両親は子どもの選択に協力的で、子どもは意見が異なった場合も話し合おうとするのだろう。

進路選択場面における親子間コミュニケーションの“協力”からは“進路選択自己効力”に肯定的な影響を及ぼすことが明らかとなった。両親が協力的であることが子どもの進路選択自己効力の向上に影響することは、子どもの進路選択に両親の影響が大きいためであると考えられる。

“議論による立場の明確化”からは、“自己肯定感”、“進路選択自己効力”に肯定的な影響を及ぼすことが明らかとなった。進路選択において親と議論を積極的に行ったことで、子どもが自分の意見を伝え深めることができ、自己肯定感の向上に繋がったためではないだろうか。その経験が今後の進路選択場面でも自分の決断に自信を持つことへ繋がっていると推察される。“従順”からは“自己肯定感”に肯定的な影響を及ぼすことが明らかとなった。両親の意見に従うことでいい子の自分であることができる為、自己肯定感を低下させず、いい子の自分に満足できるのではないかと考えられる。

“自己肯定感”からは“進路選択自己効力”に肯定的な影響を及ぼすことが明らかとなった。自分が自分であって大丈夫であるという感覚は、進路選択においても自身の決断を信じるための基盤の1つとなりうると予測され、進路選択自己効力の向上にも影響するのだろうと推察される。

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所令和元年度大学院生研究助成(B)(DB1925)より研究助成を受け行った。

また、学内の生命科学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施された(承認番号:2019-024-1)。

主要参考文献

[1] 富永美佐子(2008). 進路選択自己効力に関する研究の現状と課題 キャリア教育研究,25,97-111.